

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	AIP5000E
Course Name	Introduction to Japan
Instructor	PRESSELLO Andrea
Email Address	
Term/Day/Period	Fall (Session I) 秋前/Thu 木/3 4
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

The purpose of this course is to provide a basic understanding of Japan through the discussion of its history and culture. In particular, the course examines the major transformations, issues, and challenges faced by Japan from ancient times to today, exploring domestic socio-political-economic and cultural developments, as well as Japanese relations with the world. The following main questions will be addressed during the course: what are the important transformations in Japanese history and culture? What factors explain change and continuity? How has Japan interacted with other countries in the course of its history? Through this course, students can gain a basic understanding of some of the major historical and societal developments and policy issues in Japan, and can acquire the ability to identify and explain factors shaping major processes and decisions by Japanese leaders. Such learning also contributes to deepen understanding of contemporary Japan and its people. During the course, some videos will be shown and one or two classes will be held in the form of a field trip to a site related to the contents of the course.

[Course Goals]

Students can:

- understand issues and processes in Japan's history and society.
- develop the ability to identify and explain factors shaping Japanese leaders' choices, and their implications.

[Related Diploma Policy (DP)]

ASEAN Initiatives Program DP4

- ④ Ability to build and develop friendly relations between Japan and ASEAN

2. Course Outline :

- 1) Introduction
- 2) Understanding Japan: geography, religion, values, and traditional culture
- 3) Pre-modern Japan: socio-political-economic transformations
- 4) Cultural flourishing in the Edo period (1603-1868)
- 5) Japan in the mid-19th century: end of the "closed country" policy and the "Meiji Revolution"
- 6) The making of modern institutions, economy, and society in the Meiji period (1868-1912)
- 7) Emergence of Japan as an international power
- 8) Field trip
- 9) From progress in the democratization process to the rise of militarism
- 10) World War II, defeat, and the Occupation of Japan
- 11) Postwar Japan: recovery and issues I
- 12) Postwar Japan: recovery and issues II
- 13) Field Trip

- 14) Contemporary Japan: challenges and issues I
- 15) Contemporary Japan: challenges and issues II

* This course outline is subject to change.

[Out-of-class Learning]

In preparation for each class, students are expected to read the materials distributed by the instructor and write short reaction comments on them. After class, students are encouraged to review the contents of the lecture and their notes. Students are also encouraged to do further reading on specific topics of their interest that were discussed in class.

3. Grading :

Term paper: 60%

Reaction comments and contribution to class discussions: 40%

[Grading Criteria]

Outstanding: A

Superior: B

Satisfactory: C

Minimum acceptable: D

Unsatisfactory: E

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

There is no specific textbook required for this course. Reading materials (such as journal articles, book chapters, other) will be provided by the instructor during the course.

4-2:Others

5. Software Used in Lectures :

The use of generative artificial Intelligence is not allowed when writing weekly assignments and the term paper. Software that provide support with English grammar and spelling can be used.

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7. Note :

Back

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	DEV2160J
授業名	社会基盤整備のPPP/PFI
担当者	HIBINO Naohiko／日比野 直彦
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Fall (Session I) 秋前／Tue 火／3
単位数	1

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

社会基盤整備の方法は多様化しており、PPP（Public Private Partnerships） / PFI（Private Finance Initiative）の適用が進んでいます。本講義では、このような背景を踏まえ、PPP/PFI についての基礎的な内容（現状、制度、課題等）を理解することを目標として、講義を行います。なお、後半は、受講者をいくつかのグループに分け、発表・討議を行います。

[到達目標]

PPP/PFI についての基礎的な内容を理解し、それを説明できるようになることです。

[関連するディプロマ・ポリシー]

公共政策プログラム地域政策コース DP②、インフラ政策コース DP①、防災・危機管理コース DP⑤、医療政策 DP②、農業政策 DP②、科学技術・イノベーション政策コース DP②、国際協力コース DP②、まちづくり政策コース DP②、総合政策コース DP②です。

2. 各授業のテーマ：

前半は、概論、基本用語の解説、PPP/PFI の現状、事業プロセス、リスクマネジメント、課題等に関する講義を行います。後半では、学生からの発表とそれに基づく討議を行います。

[授業外学修]

予習は、事前に 配布する資料を読んで、全体構成を把握しておくことです。また、後半は各自で発表の準備をすることです。復習は、講義で使われた基本用語を覚え、その内容を整理することです。

3. 成績の評価方法：

[成績評価基準]

発表および討議での発言、課題の成果を基に評価します。

（発表：60%，討議：40%）

- A: 到達目標について高い水準で達成している
- B: 到達目標について満足できる水準で達成している
- C: 到達目標について概ね達成している
- D: 到達目標について最低限の水準は達成している
- E: 到達目標について達成できていない

4. テキスト、参考文献等：（4-1:必携のテキスト 4-2:その他）

必携のテキストは特になし。必要に応じて講義内で配布。

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

否

7. 履修上の注意：

社会基盤整備についての基礎的な知識を有していることが望ましい。

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	DEV2180J
授業名	水圏国土学
担当者	CHIBANA Takeyoshi／知花 武佳
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Fall (Session I) 秋前／Wed 水／4 5
単位数	1

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

本講義は、日本全国の河川および流域の風景をスライドで学び、日本の国土に見られる自然環境には、各地域どのような特徴があり、それがどのようなメカニズムで形成されるのか、そしてその上で人と自然との間にどのような相互作用があったのかを理解するものである。

これからの人口減少と都市への一極集中で、人と自然との関わり方が大きく変化しようとしている中、環境の保全・再生、天然資源の利用、および安全対策の三つが調和した川づくり・国土形成が求められており、そのためには地域固有の自然環境特性を理解し、その特性に調和した河川・流域管理手法を考える必要がある。この河川・流域管理手法、ひいては日本の風土を踏まえた国土計画、さらには日本の自然に根ざした日本人の特徴とは何かを考えられるようになるため、日本各地の河川およびその流域の自然環境の特徴や、それに関わる種々の基礎知識を理解してもらいたい。我が国の国土を今後どのように整備していくべきかを考える一助となれば幸いである。

なお、本講義は、SDGsの目標9, 11, 14, 15（産業基盤、まちづくり、海の豊かさ、陸の豊かさ）に関連する。

[到達目標]

- ・履修学生の皆さんが、日本各地の河川およびその流域の自然環境の特徴や、それに関わる種々の基礎知識を理解し、我が国の国土を今後どのように整備していくべきかを提案できるようになることを目指す。
- ・もう一つは、"川"あるいはその"流域"を見る楽しみを知ることであり、この講義で川に立ち寄りながら旅することを楽しめるようになってもらいたい。

[関連するディプロマ・ポリシー]

- 公共政策プログラム地域政策コース ディプロマポリシー②
- 公共政策プログラムインフラ政策コース ディプロマポリシー①③
- 公共政策プログラム防災・危機管理コース ディプロマポリシー①②
- 公共政策プログラム医療政策コース ディプロマポリシー①
- 公共政策プログラム農業政策コース ディプロマポリシー①
- 公共政策プログラム科学技術イノベーション政策コース ディプロマポリシー①
- 公共政策プログラム国際協力コース ディプロマポリシー①
- 公共政策プログラムまちづくり政策コース ディプロマポリシー①
- 公共政策プログラム地域創造・金融コース ディプロマポリシー③
- 公共政策プログラム文化産業・地域創造コース ディプロマポリシー②

2. 各授業のテーマ：

- 01. 「日本の川に見る地域特性」
- 02. 「日本列島の成り立ち」
- 03. 「土砂で捉える流域の特徴」
- 04. 「山地の特徴と森林管理」
- 05. 「丘陵地・台地の特徴と里山管理」
- 06. 「低地の特徴と氾濫原管理」
- 07. 「地形図から川と土地を知る」

08. 「日本の国土（まとめ）」

[授業外学修]

授業外学修として、授業期間中に日本の国土に関する文献を読むと共に、国内のどこかの地域に赴いて、その場所の地形的・地質的特徴についてよく観察し、地域の景観との関係を考察すること。

3. 成績の評価方法：

「市区町村の地理的・社会的特徴に関する課題（レポート）」で評価（100％）。例は下記参照。

（課題例）

以下の課題について、A4で2～4ページ（図や写真を含めて結構ですが、多くなる場合や参考資料がある場合は別添可）でまとめて下さい。単に資料をまとめるだけでなく、講義ででてきた話題のどれかに関連づけながら深く考察し、自分の意見がまとめられているレポートを高く評価します。

1. ある市区町村を選定し、その**地形的特徴**（山地・丘陵地・段丘・低地（扇状地・蛇行原・三角州）の別とその形態的特徴、あるいは地質的特徴）およびその**形成過程**（隆起・沈降、縄文海進による海底堆積物、火山灰、川や海による侵食など）を簡潔に紹介して下さい。対象地は、居住地、実家、親戚の家、かつて行ったことのある場所、これから訪問する（したい）場所などどこでも構いません。

2. 地形的（あるいは地質的）特徴に根ざした**生活様式や生業、土地の人為的改変**としてどのようなものが見られるか、あるいは見られたかを述べて下さい。（例えば、遺跡、古墳、条里制遺構、荘園跡、城跡、灌漑施設と農業、林業や薪炭林管理、炭鉱、湧水や地下水利用、漁業、集落の発展や都市化、河道の付け替えや改修、地形改変など。）←要は自然の恵みについてです。

3. 地形的（あるいは地質的）特徴に起因する過去の**自然災害**、あるいは今後起こる恐れのある自然災害（豪雨・台風・地震に伴う土砂災害（土石流・崖崩れ・地這り）や水災害（洪水・渇水・津波・高潮）など）について説明して下さい。←要は自然の災いについてです。

4. 【重要】これら地理的・社会的特徴を踏まえた上で、今後の人口変化や気候変動なども考慮し、**その地域におけるこれからの住まい方やまちづくりのあり方**について自由に論じて下さい。

[成績評価基準]

評価の目安は以下の通り

A：日本列島の成り立ちと地形の特徴について十分に修得し、日本の様々な地域における地理的特性を、様々な時空間スケールで多面的に考察できる。

B：日本列島の成り立ちと地形の特徴について修得し、出身地や居住地等、身近な地域の地理的特性について考察できる。

C：日本列島の成り立ちと地形の特徴について概ね修得し、出身地や居住地等、身近な地域の地理的特性を説明できる。

D：日本列島の成り立ちと地形の特徴について最低限の修得をしており、学んだ内容を説明できる。

E：日本列島の成り立ちと地形の特徴について修得できておらず、学んだ内容を説明できない。

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

なし

4-2:その他

- ・「日本列島の誕生」 平朝彦 岩波新書（同タイトルの動画がYouTubeで閲覧可能。）
- ・「日本の地形―特質と由来―」 貝塚爽平 岩波新書
- ・日本史の謎は「地形」で解ける（三部作） 竹村公太郎 PHP文庫
- ・Hideo NAKAMURA, Kotaro NAGASAWA, et.al., "Principles of Infrastructure: Case Studies and Best Practices", Asian Development Bank Institute, 2019

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

なし

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

「これくらい知っていて当然」と思う問題について「あてる」ことはありません。たぶん知らないだろう、間違えてもらった方が説明しやすい、ということについてのみ、時々「話しかける」ので、気軽にお話ししましょう。また、講義のスピードが速い、あるいは説明がわかりにくかったという場合は、その場で教えてください。「ちょっと聞き漏らしたのでもう一回説明して下さい。」でも結構です。（一人がわからなければ、数人わからないorわかってないことにすら気づいていない。二回以上聞いて真の意味がわかるのが普通。）一緒に対話形式の講義を目指しましょう。

戻る

開講年度 (4月-3月)	2025
科目番号	ECO1000EA
授業名	Microeconomics I
担当者	XING Yuqing
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Fall (Session I) 秋前／Fri 金／2 3
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

[Course Description]

This is an introduction of microeconomics. It covers basic economic assumptions and concepts used to define behaviors of consumers and firms in markets. The course consists of three parts: consumer theory, firm theory and the equilibrium in a competitive market. In the consumer theory, preference, utility, budget constraints, utility maximization and demand curves will be introduced. In the firm theory, production and cost functions, profit maximization, and supply curves will be discussed. It will also discuss basic concepts of general equilibrium, monopoly and intertemporal allocation of consumption.

[Related Diploma Policy (DP)]

Macroeconomic Policy Program (MEP1) (MEP2) - 1

[Course Goals]

Students can learn basic economic theories on consumers and firms and the skills to analyze the behaviors of rational consumers and firms in competitive markets. In addition, students will be able to learn how to evaluate policy impacts on the welfare of an economy.

2. 各授業のテーマ：

Week 1 (two periods): Utility and Choice (chapter 2)
Week 2 (two periods): Demand Curves and Elasticity (chapter 3)
Week 3 (two periods): Production (chapter 6)
Week 4 (two periods) Costs (chapter 7)
Week 5 (two periods) Perfect competition (chapter 9)
Week 6 (two periods) Pricing in Input Market (chapter 13)
Week 7 (two periods) General Equilibrium and welfare (chapter 10)
Week 8 (one period) Capital and Time (chapter 14)

[Out-of-class Learning]

Students should read the relevant chapters of the textbook before the class to grasp the outline. After class, students should review the contents of the lecture and prepare for the next class. Besides the textbook, The Economist and Nikkei Asia are highly recommended reading materials for understanding the real economy and the impacts of economic policies on the world economy as well as individual countries.

3. 成績の評価方法：

Course Requirement: Homework (30%) and final exam (70%). No other alternatives will be given for grading. Overdue homework will not be accepted. Group discussions are encouraged for doing home work. But, each individual student should write his/her answers independently.

[Evaluation Criteria]

Student's achievement of the Course Goals is:

Outstanding: A

Superior: B

Satisfactory: C

Minimum acceptable: D

Below the acceptable level: E

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

Walter Nicholson, Intermediate Microeconomics-and Its Application, 12th edition. This book will be used in Micro II. All students should purchase the required textbook

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

否

7. 履修上の注意：

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	ECO1000EB
授業名	Microeconomics I
担当者	WIE Dainn
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Fall (Session I) 秋前／Tue 火／3 4
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

The purpose of the course is to equip students in Master's program with basic theory and analytical tools in microeconomics. Students will acquire basic learning in economic theory and its implications in the public policies, so they can move on to take more advanced courses in economics and policy evaluation and design. Therefore, the course provides essential ground of knowledge that students need to acquire to earn Master's degree in this institute.

Related Diploma Policy [DP]

- Young Leaders Program
[DP2]: Ability to acquire extensive knowledge on public policy that is necessary to generate effective solutions to policy problems
- One-year Master's Program of Public Policy (MP1)
[DP2]: Ability to analyze micro and macroeconomic policies and make practical policy recommendations based on the analysis
[DP3]: Ability to analyze international development policies that lead to economic development and make practical policy recommendations based on the analysis
- Two-year Master's Program of Public Policy (MP2)
[DP2]: Ability to analyze micro and macroeconomic policies and make practical policy recommendations based on the analysis
[DP3]: Ability to analyze international development policies that lead to economic development and make practical policy recommendations based on the analysis
- Public Finance Program (PF)
[DP1]: The ability to understand economic theory and implications behind public policies in general, tax and customs policies, in particular.
[DP2]: The ability to identify problems and evaluate public policies, customs and tax policies in particular, using various qualitative and statistical techniques, so as to make policy implications.

Achievement Goal

- Fundamental Concepts: Students should understand foundational concepts such as supply and demand, elasticity, and optimization of consumers and producers.
- Application of Economic Models: Students are expected to learn how to apply basic demand and supply models to analyze real-world scenarios and make predictions about the welfare changes of consumers and producers.
- Analytical Skills: Students should develop analytical skills to understand and utilize economic models to further predict impacts of public policy.
- Economic Literacy: Students should gain a basic understanding of economic terminology, theories, and principles that are relevant to decision-making in their personal and professional lives.

2. 各授業のテーマ：

The main theme of the course is neoclassical models of consumer's utility maximization and firms' optimization. The course also encompasses various applications of each topic to demonstrate how the analytical tools in economics can be used in various contexts of policy designs.

1. Week 1 These classes are supposed to introduce fundamental concepts in economics and equip student with necessary mathematical tools they need throughout the class.
 - i. Oct 8(1): Introduction to Microeconomics
 - ii. Oct 8 (2): Review of Mathematics
2. Week 2 These classes will introduce consumer's utility maximization behind demand curve.
 - i. Oct 15 (1): Preferences and Utility
 - ii. Oct 15 (2): Utility Maximization and Choice
3. Week 3 These classes extend consumer's utility maximization, so we can analyze how external factors affect the individual demand curve.
 - i. Oct 22 (1): Utility Maximization: Lagrangian Approach
 - ii. Oct 22 (2): Comparative Statistics
4. Week 4 These classes further extend consumer utility maximization in the context of uncertainty. Additionally, class provides insight about insurance and diversification as a strategy to combat uncertainty.
 - i. Oct 29 (1): Income and Substitution Effects
 - ii. Oct 29 (2): Choice under Uncertainty (1)
5. Week 5 These classes are designed to provide basic concepts required to understand producer's profit maximization.
 - i. Nov 5 (1): Choice under Uncertainty (2)
 - ii. Nov 5 (2): Production Function
6. Week 6 These class provides detailed explanation of producer's behavior behind supply curve.
 - i. Nov 12 (1): Cost Function
 - ii. Nov 12 (2): Profit Maximization and Supply
7. Week 7 The classes will introduce basic analysis of supply and demand curve under perfect competition.
 - i. Nov 19(1): Pure competition
 - ii. Nov 19(2): Applications in pure competition
8. Week 8: Nov 26:
 - i. Nov 26(1): Review
 - ii. Nov 26(2): Final Exam

Out of Class Learning for Each Class:

Students are expected to read the assigned chapters in the textbook prior to each class to enhance their understanding of the material covered. Additionally, after class, they are encouraged to review the course materials and complete problem sets regularly to cultivate their analytical skills.

Date	Reading	Pset Posting	Pset Due
Week 1 (1)	CH 1		
Week 1 (2)	Appendix to NC CH 1 (Optional)		
Week 2 (1)	CH 2	PS #1	
Week 2 (2)	CH 2		
Week 3 (1)	CH 3		
Week 3 (2)	CH 3		
Week 4 (1)	CH4	PS #2	PS #1

Week 4 (2)	CH 4
Week 5 (1)	CH 6
Week 5 (2)	CH 6
Week 6 (1)	CH 7
Week 6 (2)	CH 8
Week 7	CH 9
Week 8	CH 9

PS #2

3. 成績の評価方法：

There will be two home works (40%) and one Final exam (60%). The overall grade will be determined on a curve and will adhere to GRIPS assessment policy.

- A: Students demonstrate a high level of analytical understanding in written form, particularly regarding consumers' utility maximization and producers' profit maximization in both uncertain and certain contexts.
- B: Students exhibit a solid understanding of fundamental concepts and analytical tools in microeconomics, and are able to effectively communicate this understanding in written form.
- C: Students demonstrate a basic understanding of fundamental concepts in microeconomics.
- D: Students achieved the goal at a minimum acceptable level.
- E: This category encompasses students who do not meet the criteria outlined in the previous descriptions.

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:Required：

Nicholson, Walter and Christopher M. Snyder, "AISE-Theory and Application of Intermediate Microeconomics", Any international edition

4-2:Recommended for reference

Varian, Hal R. Intermediate Microeconomics: Modern Approach. Any edition

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

None

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

This course has no prerequisites and is open to all students interested in learning microeconomic principles. No prior knowledge of economics is required.

Class Info

Instructor：Dainn Wie, wie-dainn@grips.ac.jp, dainnwie@gmail.com

Office Hour: after class

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	ECO1050J
授業名	マクロ経済学
担当者	YOKOYAMA Tadashi／横山 直
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Fall (Session I) 秋前／Fri 金／2 3
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

本講義はマクロ経済学の基礎コースです。

本講義の担当者は日本政府や国際機関において長年にわたり経済政策の立案・総合調整や経済分析を担当してきました。

本講義の目的は、マクロ経済を理解するための基本的な考え方を学ぶとともに、現実の経済や政策について考える力を取得することです。

講義を通じて、理論、データ分析、国際比較などを通じて、受講者がマクロ経済動向や政策について理解し、自らの考え方を提示できる能力を身に付けます。

講義では図表を多用し、基本的な考え方をわかりやすく説明することに主眼を置きます。

【関連するSDGs】

8（成長・雇用）、9（イノベーション）、11（都市）、17（実施手段）

[到達目標]

学生が到達すべき目標は以下の通り。

- （１）マクロ経済学の基本的な考え方について理解し、説明できるようになる。
- （２）マクロ経済に関する重要な課題について、必要なデータを入手し、様々な制約条件の下で最適な解決策を考える力を習得する。
- （３）自らが考えた課題解決策について論理的に説明し、意見の異なる者とも討論できる力を習得する。

[関連するディプロマ・ポリシー]

地域政策コース

- ② 公共政策に係る幅広い知識を持ち、的確な分析、総合的な判断、効果的な実践を行うことができる能力

インフラ政策コース

- ② インフラをとりまく他分野の広範な知識を有し、それらを踏まえて俯瞰できる能力

防災・危機管理コース

- ④課題の解決に向けて、データの収集・分析等により、研究論文や政策提言としてまとめ、発表することができる能力
- ⑤公共政策に係る多角的な知識や各行政分野の現状・課題に深い理解を持ち、視野の広いリーダーとして活躍することができる能力

医療政策コース

- ②医療政策にかかる幅広い知識を持ち、多角的な視野から学術的な分析に基づいた課題解決に向けた政策分析ができる能力

農業政策コース

- ②農林水産政策にかかる幅広い知識を持ち、多角的な視野から学術的な分析に基づいた課題解決に向けた政策分析

ができる能力

科学技術イノベーション政策コース

② 公共政策に係る知識を持ち、それらの文脈の中で科学技術イノベーション政策をとらえ、分析ができる能力

国際協力コース

② 公共政策に係る幅広い知識に基づき、多角的な視野から問題解決を図ることのできる能力

まちづくり政策コース

② 公共政策に係る幅広い知識を持ち、学術的な知見に基づいて多角的に政策分析ができる能力

地域創造・金融コース

① 地域経済、地域金融、官民連携に関する必要な専門知識を持ち、関心や関係する地域の様々な特性に即して課題を適切に設定できる能力

② 公共政策に関する幅広い基礎知識を持ち、学術的な知見や理論に加えて、地域経済の実情とそこにおける金融機能の貢献を踏まえた実践的アプローチを通じて、多角的に地域の課題を分析できる能力

文化産業・地域創造コース

② 文化を含め多様な政策領域に共通する基礎的な知識や課題解決・社会実装の手法を踏まえて、事象を的確に分析して課題を抽出し、効果的な対応や実践に向けた提言を組み立てることができる能力

2. 各授業のテーマ：

1. イントロダクション：講義の概要、マクロ経済学を学ぶことの意義、マクロ経済に関する様々な見方などについて説明。
2. 日本経済史（1）：戦後復興、高度経済成長、バブルの生成と崩壊などについて説明。
3. 日本経済史（2）：バブル後の長期停滞と改革、現下の課題などについて説明。
4. 経済指標（1）：GDP統計の入手方法や見方、Well-being beyond GDPの議論などについて説明。
5. 経済指標（2）：物価、雇用などの重要な統計の入手方法や見方について説明。
6. 政府の機能：経済政策の手段、市場の失敗、マクロ経済学の考え方の変遷などについて説明。
7. 財政政策：歳出・歳入構造、裁量的財政政策、所得再分配、財政の持続可能性、政策立案プロセス、EBPMなどについて説明。
8. 貨幣と物価：貨幣の機能や種類、マネーストックとマネタリーベース、インフレ・デフレなどについて説明。
9. 金融政策：金融政策の手法、IS-LMモデル、非伝統的金融政策、デフレ脱却に向けた取組などについて説明。
10. 経済成長：ソローモデル、比較優位、日本の潜在成長力の変遷などについて説明。
11. 対外関係：ISバランス論、対外・対内直接投資、日本の産業競争力の変遷などについて説明。
12. 人口動態と地域経済：日本の人口動態、労働市場、地域間人口移動などについて説明。
13. 授業の内容に関する学生によるプレゼン（1）
14. 授業の内容に関する学生によるプレゼン（2）
15. 授業の振り返りとミニテスト

[授業外学修]

- ・事前に配布するパワポ資料に目を通す。
- ・授業終了後は授業中に紹介した文献等を学習するとともに、実際にデータを入手し、分析するなどの課題を行う。
- ・プレゼンに向け、内容の検討、スライド作成などの準備を行う。

3. 成績の評価方法：

授業への参加態度と課題（20%）、プレゼン（40%）、ミニテスト（40%）。

[成績評価基準]

A: 到達目標を高い水準で達成している

B: 到達目標を満足できる水準で達成している

- C: 到達目標を概ね達成している
- D: 到達目標を最低限の水準で達成している
- E: 到達目標を達成していない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

特に無し。毎回資料配布を行う。

4-2:その他

- ・ N・グレゴリー・マンキュー(2024)『マンキュー マクロ経済学 I 入門篇(第5 版)』東洋経済新報社
 - ・ 大守隆、増島稔編『日本経済読本(第23版)』(2025) 東洋経済新報社
 - ・ Macroeconomics 11th ed., (2022), N. Gregory Mankiw, Worth Publishers, Macmillan Learning
 - ・ OECD Economic Survey of Japan 2024, OECD
- (その他参考文献等は随時紹介)

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

経済学の基礎的知識が無くても構いません。

戻る

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO1060EA
Course Name	Macroeconomics I
Instructor	CHEN Jau-er
Email Address	
Term/Day/Period	Fall (Session I) 秋前/Wed 水/1 2
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

This course introduces a unified and global view of macroeconomics, enabling students to see the connections between goods markets, financial markets, and labor markets worldwide. We examine the determination of aggregate output, unemployment, prices, interest rates, inflation and open economy topics, in the short-run, medium-run and long-run markets. Throughout the course, we consider macroeconomic policies and economic issues of current interest from the major economic crisis and monetary policy in the United States, to the problem of Euro area and growth in China. Models and tools taught in a class help students employ and develop their analytical and evaluative skills.

[Course Goals]

Students can:

- (1) understand outlines, uses and applications of the fundamental macroeconomic concepts and theories for economic analysis,
- (2) apply the theories to evaluate related policies and macroeconomic issues

[Related Diploma Policy (DP)]

Young Leaders Program

DP.2 Ability to acquire extensive knowledge on public policy that is necessary to generate effective solutions to policy problems

One-year Master's Program of Public Policy (MP1)

DP.2 Ability to analyze micro and macroeconomic policies and make practical policy recommendations based on the analysis

Two-year Master's Program of Public Policy (MP2)

DP. 2 Ability to analyze micro and macroeconomic policies and make practical policy recommendations based on the analysis

Public Finance Program (PF)

DP.1 The ability to understand economic theory and implications behind public policies in general, tax and customs policies, in particular.

DP.2 The ability to identify problems and evaluate public policies, customs and tax policies in particular, using various qualitative and statistical techniques, so as to make policy implications.

2. Course Outline :

1. Introduction and the goods market – the demand for goods and equilibrium output
2. Financial markets I – the demand for money and interest rate
3. Goods and financial markets – the IS-LM model
4. Financial market II – the extended IS-LM model – nominal versus real interest rate, risk premium
5. The labor market – wage and price determination, the natural rate of unemployment
6. The Philips curve, unemployment, and inflation

7. From the short- to the medium-run: the IS-LM-PC model
8. The facts of growth – time, space, and production function
9. Saving, capital accumulation, and output
10. Technological progress and growth
11. Why isn't the whole world developed?
12. Upward mobility, innovation, and economic growth – big data perspectives
13. Financial markets, expectations, consumption, and investment
14. Expectations, output, and policy
15. Wrap-up session
16. Final evaluation

[Out-of-class Learning]

Students should read the class materials distributed via the class website and/or the relevant chapters of the textbook before the class to have some understanding of the outline and prepare questions to ask in class. After class, students should review the contents of the lecture and work on the assignments so that they can be familiar with the theories. Students are encouraged to apply the theories to their home country's (policy) scenarios, on top of the ones explained in class.

3. Grading :

Four problem sets (50%); Final exam (50%)

Problem set 1 due: Lecture 5

Problem set 2 due: Lecture 8

Problem set 3 due: Lecture 11

Problem set 4 due: Lecture 15

Final: Lecture 16

[Grading Criteria]

A: Achieved the goal at a high level

B: Achieved the goal at a satisfactory level

C: Achieved the goal at a generally acceptable level

D: Achieved the goal at a minimum acceptable level

E: Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

Oliver Blanchard (2020). Macroeconomics, 8th Edition, Pearson.

4-2:Others

Acemoglu D., Laibson, D., and List. J. (2018). Macroeconomics, 2nd Edition, Pearson.

Chetty, R. (2019). Using big data to solve economic and social problems. Harvard University.

<http://opportunityinsights.org/course/>

5. Software Used in Lectures :

Use of Generative AI

You may use generative AI tools (e.g., ChatGPT) to support your assignments, but you must briefly state how you used them. Submissions must remain your own original work, and unacknowledged or excessive reliance on AI will be considered academic misconduct.

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

N.A.

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO2101E
Course Name	Economics of Household and Public Policy
Instructor	KITAO Sagiri／北尾 早霧
Email Address	
Term／Day／Period	Fall (Session I) 秋前／Tue 火／1 2
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

The purpose of the course is to apply economic principles and models to complex issues relevant to the public sector, such as government expenditures and taxation and social insurance. Students will improve familiarity with the analysis of public policies and understand better how to interpret statistical and economic analysis. The course will help students understand how public policies affect households' behavior in markets through the optimization decisions in equilibrium, and consider welfare effects of different policies.

Related diploma policy

Young Leaders Program 2

Economics, Planning and Public Policy Program (EPP) 2,3

One-year Master's Program of Public Policy (MP1) 2

Two-year Master's Program of Public Policy (MP2) 2

Macroeconomic Policy Program (MEP1 and MEP2) 1

Public Finance Program (PF) 1

2. Course Outline :

The preliminary schedule below is subject to changes and will be updated as we progress.

Week 1: Introduction. Roles of the public sector

Week 2: Fundamentals of welfare economics: market efficiency, market failure, public goods (Ch 3, 4, 5)

Week 3: Externalities, efficiency and equity

Week 4: Public production of goods and services, student presentations

Week 5: Public choice, public expenditure

Week 6: Taxation in theory 1: tax incidence, tax and economic efficiency

Week 7: Taxation in theory 2: optimal taxation, taxation of capital

Week 8: Taxation in practice, student presentations

Out-of-class Learning

Students are expected to spend approximately 60 hours of out-of-class and undertake the following tasks.

- Weekly preparation for the class 20 hours
- Weekly review of the class 15 hours
- Solving homework 10 hours
- Preparing for the student presentations 15 hours

3. Grading :

50% Two class presentations (25% each)

- Discuss an article on public policy issues. I will provide a list of suggested articles.
- Present own investigation of public policy issues in a country of a student's selection.

50% Two problem sets (25% each)

Depending on the class size, the grading policy may be adjusted so that students will give one presentation only (25%) and three problem sets (75%).

Grading criteria

A: Achieved the goal at a high level

B: Achieved the goal at a satisfactory level

C: Achieved the goal at a generally acceptable level

D: Achieved the goal at a minimum acceptable level

E: Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

Stiglitz, Joseph E. and Jay K. Rosengard, Economics of the Public Sector.

5. Software Used in Lectures :

N/A

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Auditing is allowed upon permission of the instructor.

Prof. Kitao's Office location: B910

Office hour: by appointment

Class term & time: 2025 Fall Session I (October - November)

Tue 9:00AM-10:30AM & 10:40AM-12:10AM (1st and 2nd Periods)

Lecture classroom: Room J

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO6000E
Course Name	Advanced Microeconomics I
Instructor	MUNRO Alistair
Email Address	
Term/Day/Period	Fall (Session I) 秋前/Wed 水/3 Thu 木/1
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

This is the first course in the sequence of advanced microeconomics. Students will learn and apply the mathematical framework of individual economic decisions and their interaction. The topics covered include tools for microeconomics, consumer theory, the theory of the firm, duality and general equilibrium. The goals are to understand and to be able to solve consumers' and firms' maximization problems as well as the market equilibrium. In addition, students should develop a basic understanding of the links from demand theory to applied work.

[Course Goals]

- Students can set up maximization problems for consumers and firms.
- Students have a basic understanding of duality, including the properties of cost functions and indirect utility functions.
- Students can solve basic mathematical models of general equilibrium.
- Students can understand a variety of different utility functions and their associated demand functions.
- Students can explain how to solve basic microeconomic problems to their peers.

[Related Diploma Policy (DP)]

Macroeconomic Policy Program (MEP1 , Master of Public Economics)

DP.1. Having the expertise in basic economics necessary for the analysis, formulation and implementation of macroeconomic policies, the ability to apply it to macroeconomic policy design and evaluation practices

Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Policy)

DP.1. Having the expertise in basic economics necessary for the analysis, formulation and implementation of macroeconomic policies, the ability to apply it to macroeconomic policy design and evaluation practices

Macroeconomic Policy Program (MEP2)

DP.1. Having the deep expertise in basic economics necessary for the analysis, formulation and implementation of macroeconomic policies, the ability to apply it to macroeconomic policy design and evaluation practices

Policy Analysis Program (PA)

DP1. The ability to devise and conduct a program of research under supervision

DP1. The ability to independently devise and conduct a program of research

DP2. The ability to apply quantitative methods to economic and social data

DP2. The ability to conduct quantitative analysis using the methods of modern economics

2. Course Outline :

a. Consumer Theory (3 lectures)

1. Preferences and Utility Maximization

- 2. Expenditure Minimization and Duality
- b. Welfare, EV and CV (1 lecture)
- c. Review and presentation. (1 lecture) Problem set 1 must be submitted before the start of this lecture via Teams.
- d. Theory of Competitive Firms (3 lectures)
 - 1. Primitives
 - 2. Cost Minimization and Profit Maximization
 - 3. Properties of cost and profit functions. The envelope theorem.
- e. Functional forms for applied work and discrete choice (2 lectures)
- f. Market Equilibrium (4 lectures) Problem set 2 should be submitted via Teams before the start of the first of these lectures.
 - 1. Partial Equilibrium
 - 2. General Equilibrium (GE)
 - 1. Pure Exchange Economy
 - 2. Pareto Optimality and Welfare Theorems
 - 3. GE with Production
- g. Review. Final exam on general equilibrium follows afterwards. (1 lecture)[EW1]

[Out-of-class Learning]

Students should read the relevant text book chapters including the problems, and lecture notes/slides before the lectures and review them after a lecture. They should also carefully review any feedback given on assignments.

3. Grading :

The course grade will be based on 2 problem sets, each worth 40% and a short final exam set on general equilibrium conducted after the final lecture, weighted 20%. For each student, one problem from the first problem set will be assigned to be presented in lecture 5. The presentation will count 30% towards the relevant problem set.

[Grading Criteria]

Student's achievement is:

A Outstanding on all course goals:

B Achieved all goals at a satisfactory level and some at an outstanding level

C Achieved all goals at a satisfactory level

D Achieved all goals at a minimum acceptable level

E: Below the minimum acceptable level

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

Jehle, G. and Reny, P. (2011): Advanced Microeconomic Theory, 3rd ed.

4-2:Others

Varian, H. (1992): Microeconomic Analysis, 3rd edition, 1992

Mas-Colell, A. Whinston, M. and Green, J. (1995): Microeconomic Theory

For functional forms and discrete choice we will rely on lecturer's notes.

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

- Basic knowledge of multi-variable calculus, constrained optimization, linear algebra, and probability is assumed, as is prior exposure to intermediate microeconomics. Working on the assigned problem sets is also an essential part of the course.

- Auditing is permitted provided students have the appropriate background in mathematics and microeconomics.

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO6050E
Course Name	Advanced Macroeconomics I
Instructor	PORAPAKKARM Ponpoje
Email Address	
Term/Day/Period	Fall (Session I) 秋前/Tue 火/3 4
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

This is the first course in the Ph.D. macroeconomics sequence. The course emphasizes the methods to solve dynamic macroeconomic problems. Specifically, we will learn about applied dynamic programming and its application on optimal growth models and dynamic stochastic general equilibrium models (DSGE). Two solution methods, namely value function iteration and log-linearization, will be repeatedly utilized to analyze this class of macro models. The class lectures, assigned problems, and the exam will focus on analytic solutions and the underlying economic intuition. Numerical solutions, which require computer programming skills, will be briefly discussed in class.

Throughout the course, we will assume a representative household/firm and frictionless markets. These assumptions will be relaxed in the later courses in this sequence.

[Course Goals]

- 1) Students are expected to be well equipped with mathematical tools commonly used in dynamic macroeconomic models.
- 2) In addition, students must be able to interpret and explain economic intuitions behind the results in each model studied in the course.

[Related Diploma Policy]

Policy Analysis Program (PA)

Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Policy, Master of Public Economics)

1. Having the expertise in basic economics necessary for the analysis, formulation and implementation of macroeconomic policies, the ability to apply it to macroeconomic policy design and evaluation practices

Macroeconomic Policy Program (MEP2)

1. Having the deep expertise in basic economics necessary for the analysis, formulation and implementation of macroeconomic policies, the ability to apply it to macroeconomic policy design and evaluation practices

2. Course Outline :

Class lectures over 8 weeks will cover the following 6 themes

- 1.Introduction to Dynamic Programming
- 2.Introduction to Dynamic Programming (continue)
- 3.Optimal Growth Model (social planner v.s. competitive equilibrium)
- 4.Solow Growth Model/Optimal Growth Model (solution methods: value function iteration, log-linearization, and method of undetermined coefficients)
- 5.Endogenous Growth Model: externality/human capital
- 6.DSGE Model (solution methods: value function iteration and log-linearization)

7. Some RBC Facts and applied DSGE Model: calibration exercises and its criticism, welfare cost of business cycle

8. Lucas's Tree Model and Asset Pricing: equity premium puzzle (depending on the class progress)

Final exam : TBA

[Out-of-class Learning]

There will be around 4 homework assignments. Each must be handed in at the beginning of class (the due date will be in the problem set sheet). A missing problem set or a late submission will be assigned zero credit. One problem set with the lowest score will be dropped out when calculating the course's total score.

Importantly, learning from the homework is as important as learning from the class lecture. So everyone should spend a good amount of time working on the assigned problems. Everyone is encouraged to have a group discussion but must hand in own answer sheets to get credit.

3. Grading :

Homework (20%)

Final exam (80%)

The final exam must be taken on the assigned schedule. A makeup final exam is allowed only in an extreme case, eg. serious accident or hospitalization.

[Evaluation Criteria]

Student's achievements of the Course Goal is:

Outstanding: A

Superior: B

Satisfactory: C

Minimum acceptable: D

Below the acceptable level: E

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

There is no single textbook covering all topics in the course. So attending the lectures is very important. There is no required textbook. Summarized lecture note will be posted online. Listed below are recommended textbooks for students who plan to choose macroeconomics as a specialized field. Parts of these textbooks will be used to as a reference or additional reading in each lecture. All textbooks are available to use in our library.

- David Dejong and Chetan Dave, Structural Macroeconometrics 2nd Eds, Princeton University Press. This textbook gives a comprehensive coverage on the econometric methods used in empirical macroeconomics and DSGE models. This is a must-have textbook for macroeconomists using DSGE models in their research.
- Jerome Adda and Russell Cooper, Dynamic Economics: Quantitative methods and Application, MIT Press. The textbook covers numerical methods in macroeconomics. It is a nice complementary textbook to Dejong and Dave.
- Lars Ljungqvist and Thomas Sargent, Recursive Macroeconomic Theory 3rd Eds, MIT Press. This textbook is considered as a main textbook in many 1st year Ph.D. macroeconomics courses, possibly due to its wide coverage of important topics in modern (classical) macroeconomics.
- Thomas Sargent, Dynamic Macroeconomic Theory, Harvard University Press. Chapter 1 of the textbook provides a formal treatment of applied dynamic programming.

Additional reference articles will be mentioned in lecture note.

5 . Software Used in Lectures :

none

6 . Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7 . Note :

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO6700E
Course Name	Advanced Econometrics I
Instructor	WIE Dainn
Email Address	
Term/Day/Period	Fall (Session I) 秋前/Mon 月/3 4
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

Econometrics is a crucial methodology for economics and other social sciences. This course aims to introduce students to fundamental concepts of causal inference, Ordinary Least Squares (OLS) regression, relevant assumptions, regression diagnostics, and instrumental variable (IV) estimation. These tools are essential for analyzing data and connecting real-world observations to economic models. The course will also provide hands-on experience with STATA, a widely used statistical software in applied empirical economics. By the end of the course, students will develop the skills to quantify causal relationships between policy variables and economic outcomes, which is essential for their thesis research.

Related Diploma Policy [DP]

- Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Policy):[DP1]
- Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Economics): [DP1]
- Macroeconomic Policy Program (MEP2): [DP1]
- Policy Analysis Program (PA): [DP1] [DP2]

Achievement Goals

- Mastering Regression Analysis:
 - Students should understand OLS classical assumptions, internal and external validity threats and its implications in real life context.
 - Students should understand Instrumental Variable Estimation and its application in policy analysis setting.
- Proficiency in STATA Software:
 - Students should demonstrate competence in conducting regression analysis, hypothesis testing, and generating graphical outputs using STATA commands.

2. Course Outline :

The main theme of the course is to delve into the understanding of Ordinary Least Squares (OLS) regression and its limitations. Through this understanding, students will explore the nuances of OLS and learn to critically evaluate its applicability in empirical analysis. Additionally, the course will provide extensions in understanding by introducing Instrumental Variable Estimation.

Week

- 1 : Review of Statistics Hypothesis Testing
- 2 : Bivariate OLS
- 3 : Multiple OLS and Violation of Classical Assumptions
- 4 : Nonlinear Regression
- 5 : Regression Assessment

6 : Instrument Variable Estimation
7 : Heterogenous Impacts
8 : Application and Review Session

Out of Class Learning for Each Class:

Students are expected to read the lecture notes and relevant chapters in the textbook prior to each class to enhance their understanding of the material covered. Additionally, after class, they are encouraged to review the course materials and complete problem sets using STATA regularly to cultivate their analytical skills.

3. Grading :

There will be three assignments (20% each) and one exam (40%). The overall grade will be determined on a curve and will follow Grips assessment policy.

Problem sets and data will be posted on the course web page. You will be required to use STATA. Please submit your assignment **in class** on designated due date. Please append your STATA “log” files and “do” files to your assignments.

- A: Students demonstrate a high level of understanding in written form, regarding estimators, their assumptions and hypothesis testing.
- B: Students exhibit a solid understanding of fundamental concepts discussed in class, and should be able to interpret regressions accordingly.
- C: Students demonstrate a basic understanding of fundamental concepts in econometrics.
- D: Students achieved the goal at a minimum acceptable level.
- E: This category encompasses students who do not meet the criteria outlined in the previous descriptions.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

- Stock J. H., and Watson, M.W., *Introduction to Econometrics*, Addison-Wesley, any Edition.
- Greene, W. *Econometric Analysis*. Prentice Hall, Upper Saddle River, any Edition.
- Lecture notes on the course web site

5. Software Used in Lectures :

STATA, Contact AST to get a license.

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

This course has no prerequisites for the students in the PA program. For students in other program, please obtain consent from the instructor before you enroll for the course.

Note: Tentative Schedule Table, Fall 2025

Date	Topic	Problem Set		
		Posting	Due date	TA Session
Oct 6	Statistics & Hypothesis Testing	PS #1		
Oct 13	Bivariate OLS			PS#1 support +STATA

Oct 20	Multiple OLS	PS #1	
Oct 27	Nonlinear Regression	PS #2	PS#2 support
Nov 3	Regression Assessment	PS #2	
Nov 10	Instrument Variable	PS #3	PS#3 support
Nov 17	Heterogeneous Impacts	PS#3	Q&A Session
Nov 24	Final Exam		

[Back](#)

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	LAN0170E
Course Name	Abstract Writing for Japanese Students
Instructor	ONO Keiko／小野 恵子
Email Address	
Term／Day／Period	Fall (Session I) 秋前／Thu 木／4
Credits	1

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

This course aims to provide both guidance and support for Japanese speaking students who are writing abstracts in English for the first time. By taking a genre approach to academic writing, students will first analyze published abstracts to identify conventions for format and content organization, as well as common patterns of language use. Following these analyses, students will individually plan and draft their abstracts. Finally, students will learn to use corpus tools to edit and revise their drafts for language. Additional grammar focus will be offered in response to any language problems encountered over the course of study. This is also a required course for domestic students in the Public Policy Program who wish to take Global Studies.

[Relevant Diploma Policy (DP) learning goals]

The following diploma policy learning goal applies to this course.

公共政策プログラム地域政策コースDP3.

公共政策プログラムインフラ政策コース DP2

公共政策プログラム医療政策コース DP4

公共政策プログラム科学技術イノベーション政策コースDP4DP5.

公共政策プログラムまちづくり政策コースDP4.

公共政策プログラム文化産業・地域創造コース DP2

科学技術イノベーション政策プログラムDP4. DP5.

戦略研究プログラム DP1. DP2.

[Course Goals]

Upon successful completion of the course, students should be able to...

- (1) produce a complete abstract of their thesis in APA style.
- (2) produce grammatical sentences consistent with the conventions of formal writing.
- (3) search for, retrieve, and use published scholarly research in their respective fields.

2. Course Outline :

Week 1

Introduction to abstract writing

- What is an abstract?
- Elements of an abstract
- Abstract requirements

Week 2

Analysis of published abstracts

- Using Journal Ranking to identify relevant journals
- Using Scopus to find sample abstracts

-Grammatical writing: sentence types and punctuation

Week 3

Common language patterns in abstracts

- Taking a close look: reading and critiquing sample abstracts
- Manchester Academic Phrasebank: introduction
- Formal writing: alternative to phrasal verbs

Week 4

Planning & writing the first draft

- “Structured” approach to abstract writing
- Building vocabulary

Week 5

Revising the draft for content

- Editing one’s own work
- Word choice and collocation

Week 6

Introduction to corpus tools

- Using LexTutorCA
- Vocabprofile
- Concordance

Week 7

Using corpus tools to edit and revise drafts

- Self editing checklist

Week 8

Abstract writing for different audiences

- Presenting one’s research in a professional setting
- Visual aid for presentation

[Out-of-class Learning]

This course meets once a week for 90 minutes. Outside of the class, students should devote 2-3 hours each week to complete each week’s assignment and review the material covered in class.

3. Grading :

Grading will be based on the following:

- Completion of weekly homework assignments 20%
- Contribution to class activities and discussion ((to receive credits, minimum 6 attendance is required) 30%
- Submission of a final abstract in English by the designated deadline. 50%

The final grade will be pass or fail.

[Evaluation Criteria]

Pass: The requirements specified in the grading criteria are satisfied.

Fail: The requirements are not satisfied.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

Materials will be prepared and distributed by the instructor.

5 . Software Used in Lectures :

Microsoft Teams

6 . Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7 . Note :

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	LAN0310E
Course Name	Introduction to Academic Writing
Instructor	O'NEILL Gavin, et al.
Email Address	
Term/Day/Period	Fall (Session I) 秋前/Wed 水/6
Credits	1

1. Course Description and the Learning Objectives :

1.1 Description

Academic writing is an expression of academic thinking; if you are not thinking like a researcher, you cannot write like a researcher. This observation is the basis for the Introduction to Academic Writing course and what makes it stand out from other writing courses. The purpose of the course is to start our students—those identified in the diagnostic test as likely to benefit from support—on their journey to learning the language of academic inquiry in their disciplines.

1.2 Learning Objectives

Students will be able to

1. State the extent to which they believe AI should be used in the preparation of academic papers and research reports
2. Understand the importance of transparency in terms of AI use in the preparation of academic papers and research reports, by, for example, including statements on AI use with submitted work
3. Understand the important social functions of citations in academic discourse
4. Insert citations in text following APA conventions
5. Integrate ideas into a text following conventions of tense use in academic writing
6. Paraphrase source texts when integrating ideas from source texts into their own writing, changing both sentence structure and employing synonyms where appropriate
7. Quote text from source texts following APA formatting guidelines
8. Use academic vocabulary to introduce and report paraphrases and quotations from source texts
9. Create paragraphs that synthesize information from multiple sources into a coherent argument
10. Use hedges, boosters, attitude markers, engagement markers, self-mentions, and evaluative language in critiques of published studies
11. Write clear research objectives using common academic vocabulary
12. Include all commonly required information in a methodology section
13. Use academic expressions to describe procedures and limitations of a study

1.3 Related Diploma Policy

Young Leaders Program (YLP) DP4

One-Year/Two-year Master's Program of Public Policy (MP1 & MP2) DP2, 3, 4, 5

Macroeconomic Policy Program (MEP1 & MEP2) DP4

Public Finance Program (PF) DP4

Economics, Planning and Public Policy Program (EPP) DP2,3 Maritime Safety and Security Policy Program DP4,5,

2. Course Outline :

(LO = Learning Objective):

Part I: Ethical Writing: Using AI Tools Ethically

1. Using AI Tools Ethically (LO 1 and 2)

In this session, we will discuss the impact that AI is having on academic writing. We will discuss the implications of this impact for graduate students, especially those who are writing theses in a second language. We introduce a framework that will allow students, in consultation with their professors and advisors, to decide what role AI should play in the researching and writing activities while at GRIPS.

Preparation: None in particular

Review: None in particular.

Part II: Writing About the Literature

2. Summarizing Research: Citation Skills (LO 3, 4, and 5)

This session will explore the often-misunderstood purposes of citation conventions in academic writing. Students will be encouraged to understand the various motivations that researchers have for including citations so that they, too, can begin to think and write like a professional researcher. This session will also look the vocabulary choices writers make when reporting existing research as well as the subtle uses of tense to describe different aspects of the research literature.

Preparation: Read Unit 2 of the materials

Review: Analyze a research article introduction from their field for how it uses citations.

3. Comparing and Contrasting Research: Paraphrasing and Quoting (LO 6, 7, 8, and 9)

This session will provide students with practice paraphrasing and quoting sentences from sources texts. It will also discuss how best to use these techniques in their research papers.

Preparation: Read Unit 3 of the materials

Review: Complete paraphrasing activity begun in class

4. Comparing and Contrasting Research: Synthesizing (LO 6, 7, 8, and 9)

Synthesizing is a complex skill that few students will have had experience with before the outset of their studies. This session will introduce a system to help students identify points of comparison and contrast among sources, how to organize paragraphs that explore those similarities and differences, and how to weave the existing literature into a synthesized narrative.

Preparation: Read Unit 4 of the materials

Review: Analyze an Introduction or a Literature Review from an article in their field to see how the information is synthesized

5. Critiquing Claims (LO 10)

This session introduces the structure and language used by academic writers when they deeply analyze the work of other researchers. This important skill will help students engage with the exiting literature as well as providing them with the language skills needed to clearly represent this engagement in their term papers and theses.

Preparation: Read Unit 5 of the materials

Review: Complete the critique begun in class

Part III: Writing About Your Study

6. Describing Your Purpose (LO 11)

Graduate students will need to defend their research topics to their program directors, advisors, and future readers. This session will provide the vocabulary and expression needed to achieve this vital component of a research project.

Preparation: Read Unit 6 of the materials

Review: None in particular

7. Describing Your Study (LO 12 and 13)

The methods section is the engine of a research report or thesis. It must be clear and provide enough information for your reader to judge the reliability of the results or findings that you have arrived at through these inquiry methods. This session will guide students in how to explain their methods clearly,

concisely, and to the satisfaction of even the most demanding reader.

Preparation: Read Unit 7 of the materials

Review: Complete the methods description begun in class

8. Writing Workshop: A synthesis exercise (LO 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, and 13)

This final workshop session will allow participants to showcase what they have learned as well as to receive support for what they have yet to master. Participants will work on a synthesis task that resembles the one attempted in the placement test at the beginning of the academic year. It will be a chance for students to measure their progress and identify areas that need further attention in other writing courses and workshops during the year.

Preparation: Review all previous units and writing activities as well as feedback from instructor

Review: Complete the synthesis begun in class

3. Grading :

3.1 Grading Methods

This course is graded based on the production of a portfolio showcasing specific writing skills and techniques.

The portfolio will include

Criterion 1. An effective paraphrase of a short text, including an appropriate citation

(Begun in Lesson3)

Criterion 2. A 100-word critique of a source text employing appropriate vocabulary

(Begun in Lesson 5)

Criterion 3. A short description of the student's own study plan, including purpose and methods (Begun in Lesson 7)

Criterion 4. A short 200-word synthesis of three texts including appropriately formatted citations and a quotation (Begun in Lesson 8)

Criteria 1-4 will be graded as follows:

- 25 pts = Student has completed the task with no errors or omissions
- 15 pts = Student has completed the task with few errors or omissions
- 5 pts = Student has completed the task with many errors or omissions
- 0 pts = Student has not completed the task

3.2 Grading Criteria

- 60-100 pts = Pass
- 0-60 pts = Fail

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4.1 None

4.2 Petchko, K. (2018). How to write about economics and public policy. Academic Press.

5. Software Used in Lectures :

None

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

None

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	MOR1050EA
Course Name	Introduction to Data Science I
Instructor	TSUCHIYA Takashi／土谷 隆
Email Address	
Term／Day／Period	Fall (Session I) 秋前／Thu 木／3 4
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[本授業の概要]

Data science is a discipline to develop useful hypothesis and prediction from data with the help of mathematics and computers. The discipline includes traditional statistics as well as new trends such as machine learning.

In this lecture we learn basics of data science putting emphasis on its connection to mathematics and computer science.

The goal of the lecture is to develop basic skills for data analysis by using R and learn basics of statistical inference. Students are expected to be capable of drawing graphs of data downloaded from internet and conducting data analysis using basic statistical/machine learning models such as regression and decision trees, after taking the course.

[到達目標]

The students understand basic concepts in data science.

The students develop skills to conduct data analysis in R.

[関連するディプロマ・ポリシー]

One-year Master's Program of Public Policy (MP1): 5

Two-year Master's Program of Public Policy (MP2) : 5

Young Leaders Program (YLP) : 2

Macroeconomic Policy Program (MEP1): 1

Macroeconomic Policy Program (MEP2): 1

Public Finance Program (PF): 2, 4

Economics, Planning and Public Policy Program (EPP): 2, 3

2. Course Outline :

The following topics will be covered in 15 classes:

- Overview of data science (Statistics, machine learning) (1st class)
- Introduction to R (data frame, for loop, if sentence, reading dataset, drawing graphs etc.) (2nd class)
- Regression model (parameter estimation by R, variable selection methods, hypothesis test, p-value) (3rd and 4th classes)
- Decision tree (5th class)
- Maximum likelihood methods and model selection criterion AIC (6th and 7th classes)
- Probability, conditional probability and Bayes inference (8th class)
- Normal distribution, exponential distribution and uniform distribution (9th class)
- Principal component analysis (10th class)
- Clustering methods (11th class)
- Contingency tables and discrete data (12th class)

- Logistic regression (13th class)
- Programming in R (14th and 15th classes) [NH1]

[授業外学修]

The students are asked to study the topic of next class in advance based on the materials delivered in advance, and are asked to deepen understanding of the subjects taught at the last lecture (by watching video recording if necessary).

3. Grading :

Take home examination 100% The examination is given at the end of the last class of the course and students are asked to submitted their reports by due date.[NH1]

[Grading Criteria]

A 90–100 Pass: Achieved the goal at a high level

B 80–89 Pass: Achieved the goal at a satisfactory level

C 70–79 Pass: Achieved the goal at an acceptable level

D 60–69 Pass: Achieved the goal at a minimum acceptable level

E 0–59 Fail: Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

Delivered prior to lectures in lectures

5. Software Used in Lectures :

R Studio

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

This course is designated as a Data Science related course.

We assume high school level mathematics as required mathematical skill.

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	MOR1050EB
Course Name	Introduction to Data Science I
Instructor	MOROHOSI Hozumi／諸星 穂積
Email Address	
Term／Day／Period	Fall (Session I) 秋前／Fri 金／2 3
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[本授業の概要]

Data science is a discipline to develop useful hypothesis and prediction from data with the help of mathematics and computers. The discipline includes traditional statistics as well as new trends such as machine learning.

In this lecture we learn basics of data science putting emphasis on its connection to mathematics and computer science.

The goal of the lecture is to develop basic skills for data analysis by using R and learn basics of statistical inference. Students are expected to be capable of drawing graphs of data downloaded from internet and conducting data analysis using basic statistical/machine learning models such as regression and decision trees, after taking the course.

[到達目標]

The students understand basic concepts in data science.

The students develop skills to conduct data analysis in R.

[関連するディプロマ・ポリシー]

One-year Master's Program of Public Policy (MP1): 5

Two-year Master's Program of Public Policy (MP2) : 5

Young Leaders Program (YLP) : 2

Macroeconomic Policy Program (MEP1): 1

Macroeconomic Policy Program (MEP2): 1

Public Finance Program (PF): 2, 4

Economics, Planning and Public Policy Program (EPP): 2, 3

2. Course Outline :

The following topics will be covered in 15 classes:

- Overview of data science (Statistics, machine learning) (1st class)
- Introduction to R (data frame, for loop, if sentence, reading dataset, drawing graphs etc.) (2nd class)
- Regression model (parameter estimation by R, variable selection methods, hypothesis test, p-value) (3rd and 4th classes)
- Decision tree (5th class)
- Maximum likelihood methods and model selection criterion AIC (6th and 7th classes)
- Probability, conditional probability and Bayes inference (8th class)
- Normal distribution, exponential distribution and uniform distribution (9th class)
- Principal component analysis (10th class)
- Clustering methods (11th class)
- Contingency tables and discrete data (12th class)
- Logistic regression (13th class)

- Programming in R (14th and 15th classes) [NH1]

[授業外学修]

The students are asked to study the topic of next class in advance based on the materials delivered in advance, and are asked to deepen understanding of the subjects taught at the last lecture (by watching video recording if necessary).

3. Grading :

Take home examination 100% The examination is given at the end of the last class of the course and students are asked to submitted their reports by due date.[NH1]

[Grading Criteria]

A 90–100 Pass: Achieved the goal at a high level

B 80–89 Pass: Achieved the goal at a satisfactory level

C 70–79 Pass: Achieved the goal at an acceptable level

D 60–69 Pass: Achieved the goal at a minimum acceptable level

E 0–59 Fail: Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

Delivered prior to lectures in lectures

5. Software Used in Lectures :

R Studio

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

This course is designated as a Data Science related course.

We assume high school level mathematics as required mathematical skill.[NH1]

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	STI2160E
Course Name	Outline of Energy Policy
Instructor	TAKAHASHI Kazuaki／高橋 一彰
Email Address	
Term／Day／Period	Fall (Session I) 秋前／Fri 金／3 4
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

Energy is essential for living standards in the modern economy. Each country conducts its own energy policy for securing energy supply sufficient to increasing demand by the economic growth, maintaining the cost within affordable levels and considering environmental concern simultaneously.

This class explores energy situation, energy policy challenges and possibilities from various perspectives, including the basic principle 3E+S (Safety, Energy Security, Economic Efficiency and Environment).

Students will identify and compare the characteristics of the energy situation and energy policy and potential solutions for sustainable energy policy in each country for effective understanding.

This course is related to the following SDGs:

7 (Energy), 8 (Economic Growth), 13 (Climate Action)

[Related Diploma Policy (DP)]

One-year Master's Program of Public Policy (MP1): ⑤

Two-year Master's Program of Public Policy (MP2): ⑤

Science, Technology and Innovation Policy Program (STI)(Master): ①②③④⑤

[Course Goals]

Students can:

- (1) identify the challenges to be solved for developing sustainable energy policy
- (2) discuss the challenges and potential solutions
- (3) raise the issues that need to be studied in more detail to get meaningful policy framework

2. Course Outline :

Week1-1	Introduction	Main Objectives of Energy Policy, Global Supply and Demand Figure, Historical View of Energy Policy etc.
Week1-2	Policy Framework	Safety, Energy Security, Economic Efficiency and Environment as the principle of energy policy
Week2-1	Oil and Gas Security Policy	Oil and natural gas policy for the security of energy supply (Prof. Nei)
Week2-2	Clean Energy System	Technologies for a sustainable energy system, such as energy saving, renewables, hydrogen and CCUS, and framework of Japanese Energy Policy (Prof. Nei)
Week3-1	Energy Measures that Provide Co-benefits	Energy measures with co-benefits for health, pollution reduction, resilience etc. (an expert will be invited as a speaker)

Week3-2	Energy and Environment	Energy measures to mitigate climate change (an expert will be invited as a speaker)
Week4-1	Electricity and Nuclear Energy Policy	Measures for resilient electricity infrastructure, including nuclear energy's role in energy policy (Prof. Nei)
Week4-2	Energy Situations (group discussion)	Comparison of energy supply and demand and other energy situations in each country
Week5-1	Nuclear Safety after Fukushima accident	An overview of the nuclear accident at Fukushima Daiichi NPS and the response to it (an expert will be invited as a speaker)
Week5-2	Measures to Implement Energy Policies (group discussion)	Trends and challenges in energy conservation and renewable energy deployment Comparison of energy policies in each country
Week 6	3E+S (group discussion)	Challenges and policy measures to balance each aspect of 3E+S (Safety, Energy Security, Economic Efficiency, Environment)
Week7-1	Latest Energy Policy in Japan	The direction of Japan's energy policy and the promotion of decarbonization in Asia under AZEC (an expert will be invited as a speaker)
Week7-2	Energy Policy Challenges (group presentation)	Energy policy characteristics and challenges in each country
Week8-1	Recent Trends in Measures to Combat Climate Change	The latest discussions and developments on climate change at national and international level (an expert will be invited as a speaker)
Week8-2	Discussion of Energy Policy for the Future	Comprehensive discussion of energy policy based on what has been learnt in this course

※Term Paper should be submitted by the end of the next week of Week 8.

※Contents of the Course might be changed due to inquiries or expectations of students.

[Out-of-class Learning]

Students are expected to be active participants in class and to develop a mutual understanding of each country's situation through discussion.

After class, students should review the contents of the lecture, make comment for each day and prepare for group discussion/presentation and term paper.

3. Grading :

Term paper 40%, Group discussion/presentation 30%, Comment sheet for each day 30%.

Term paper is composed of about 1000words.

A: Acquire sufficient knowledge of sustainable energy policy and can identify challenges and propose solutions for a meaningful policy framework

B: Acquire basic knowledge of sustainable energy policy and can identify challenges and propose solutions for a meaningful policy framework

C: Acquire basic knowledge of sustainable energy policy and can identify challenges for a meaningful policy framework

D: Acquire basic knowledge of sustainable energy policy

E: Not acquire basic knowledge of sustainable energy policy and cannot explain what it is.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:必携のテキスト/Required

4-2:その他/Others

- ① World Energy Outlook 2024, International Energy Agency (IEA)
<https://www.iea.org/reports/world-energy-outlook-2024>
- ② White Paper of Energy in Japan 2024 (Japanese)
<https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2024/pdf/>
- ③ Energy Policies of IEA Countries; Japan 2021 Review
<https://www.iea.org/reports/japan-2021>
- ④ Strategic Energy Plan, Government of Japan
https://www.enecho.meti.go.jp/en/category/others/basic_plan/
- ⑤ Countries and regions, International Energy Agency(IEA) website
<https://www.iea.org/countries>

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Back

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	STI2250J
授業名	計量分析演習
担当者	SUZUKI Jun／鈴木 潤
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Fall (Session I) 秋前／Sat 土／3 4
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

EBPM（エビデンスに基づく政策立案）のための政策効果の測定には、各種サーベイ結果や統計等のデータの活用が欠かせない。本講義は、基本的なデータ分析を学生自らが実際に行うことによって、適切なデータの収集やクリーニング、加工、分析、結果の解釈、などを行うことができる能力を養うことを目的とする。計量分析のツールは日々進歩しているが、それを利用したり結果を解釈したりするためには知っておくべき前提や専門用語、手法の限界、陥りがちな落とし穴などが随所に存在する。本講義では統計学の理論や数学的説明を極力避け、実務的な応用と解説を重視するため、統計分析の初心者であっても受講可能である。本演習によって基本的な分析手法と結果を解釈する能力を身に着ければ、様々なレポートや論文で示されるデータ分析結果を自ら主体的に解釈し、他者による解釈の限界などを理解することも可能になるものと期待される。

[到達目標]

学生が到達すべき目標は以下の通り。

- (1) 定量的データの種類や特性を理解し、目的とする分析の手法やモデルに対してどのようなデータ型が適切なのかを理解することができるようになる。
- (2) 定量的データのクリーニングや記述統計、分布の確認などができるようになる。
- (3) 統計分析ツール（ソフトウェア）の基本的操作方法を身に着ける。
- (4) 出力された分析結果の意味とその限界を理解し、適切に解釈することが可能になる。

[関連するディプロマ・ポリシー]

（科学技術イノベーション政策プログラム）

- ③ 科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、問題を設定し、仮説を構築し、定量的・定性的データ等を活用して分析を行い、それらを政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションできる能力
- ④ 科学技術イノベーション政策の形成や実施の実務に関する理解を有し、理論と実務を架橋した実践的な政策提言ができる能力

2. 各授業のテーマ：

各sessionは、土曜日の午後3限/4限連続で実施する（最終回は3限のみ）

Session 1/2 データ分析の基礎と分析ソフト・データの準備

R、Rコマンダー、EZRのセットアップ、データの観察と記述統計

Session 3/4 グループ間の比較と検定

変数の種類、平均値の比較、中央値の比較、相関、直交表

Session 5/6 多変量解析の基礎

因子分析・主成分分析、クラスター分析

Session 7/8 回帰分析-1

単回帰、OLS重回帰、残差の診断、変数選択

Session 9/10 回帰分析-2

ダミー変数、カテゴリーデータ：ロジスティック回帰（単項、多項、順序）、一般化線形モデル

Session 11/12 回帰分析-3

時系列データ、パネルデータの重回帰

Session 13/14 因果関係の分析、その他

内生性と操作変数、傾向スコアによる分析、その他

Session 15 ラップアップ

学生による課題解析発表の発表と討論

[授業外学修]

受講者は、毎回授業で配布されるサンプルデータを用いて、自ら分析を再現するとともに、様々な分析のオプションを実施し、どのような結果が得られるのかを確認してみることが望ましい。また、ラップアップに向けて担当するデータセットが決まったら（ラップアップの2～3週間前に決定）、適切な方法で分析を行い、結果を解釈する。そして効果的なプレゼンテーションを目指してパワーポイント・スライドなどを作成する。

3. 成績の評価方法：

各sessionにおけるデータ分析とディスカッションへの参加（50%）

最終ラップアップsessionにおける自らの分析結果の発表とディスカッション（50%）

【成績評価基準】

A: 到達目標について高い水準で達成している

B: 到達目標について満足できる水準で達成している

C: 到達目標について概ね達成している

D: 到達目標について最低限の水準は達成している

E: 到達目標について達成できていない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

4-2:その他

神田善伸、2020年、EZRでやさしく学ぶ統計学「改訂3版」、中外医学社

逸見功、2018年、統計ソフト「R」超入門、ブルーバックス、講談社

森田果、2014年、実証分析入門、日本評論社

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

受講者は、事前に下記HP（自治医大のHPです）から、EZRのインストーラーをダウンロードしておくこと（インストールと初期設定は講義の中で行う）：

<https://www.jichi.ac.jp/saitama-sct/SaitamaHP.files/statmed.html>

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

本講義は、修士課程・博士課程の合同講義として実施する。授業形態はハイブリッド（対面とオンラインの併用）である。

受講者は、統計ソフトのインストールおよびデータを保存するため、自らのPCを持参すること（OSとしてWindows 11 搭載機、また操作性の観点からマウスの利用を推奨する。Mac OS搭載機については、OSのバージョンにより統計ソフトがインストールできないことがあるので、利用する場合は自己責任で）。

この科目はデータサイエンス関連科目に指定されています。

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	STI7161E
Course Name	Outline of Energy Policy
Instructor	TAKAHASHI Kazuaki／高橋 一彰
Email Address	
Term／Day／Period	Fall (Session I) 秋前／Fri 金／3 4
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

Energy is essential for living standards in the modern economy. Each country conducts its own energy policy for securing energy supply sufficient to increasing demand by the economic growth, maintaining the cost within affordable levels and considering environmental concern simultaneously.

This class explores energy situation, energy policy challenges and possibilities from various perspectives, including the basic principle 3E+S (Safety, Energy Security, Economic Efficiency and Environment).

Students will identify and compare the characteristics of the energy situation and energy policy and potential solutions for sustainable energy policy in each country for effective understanding.

This course is related to the following SDGs:

7 (Energy), 8 (Economic Growth),13(Climate Action)

[Related Diploma Policy (DP)]

Science, Technology and Innovation Policy Program (STI)(Doctoral): ①②③④⑤

[Course Goals]

Students can:

- (1) identify the challenges to be solved for developing sustainable energy policy
- (2) discuss the challenges and potential solutions
- (3) raise the issues that need to be studied in more detail to get meaningful policy framework

2. Course Outline :

Week1-1	Introduction	Main Objectives of Energy Policy, Global Supply and Demand Figure, Historical View of Energy Policy etc.
Week1-2	Policy Framework	Safety, Energy Security, Economic Efficiency and Environment as the principle of energy policy
Week2-1	Oil and Gas Security Policy	Oil and natural gas policy for the security of energy supply (Prof. Nei)
Week2-2	Clean Energy System	Technologies for a sustainable energy system, such as energy saving, renewables, hydrogen and CCUS, and framework of Japanese Energy Policy (Prof. Nei)
Week3-1	Energy Measures that Provide Co-benefits	Energy measures with co-benefits for health, pollution reduction, resilience etc. (an expert will be invited as a speaker)
Week3-2	Energy and Environment	Energy measures to mitigate climate change (an expert will be invited as a speaker)

Week4-1	Electricity and Nuclear Energy Policy	Measures for resilient electricity infrastructure, including nuclear energy's role in energy policy (Prof. Nei)
Week4-2	Energy Situations (group discussion)	Comparison of energy supply and demand and other energy situations in each country
Week5-1	Nuclear Safety after Fukushima accident	An overview of the nuclear accident at Fukushima Daiichi NPS and the response to it (an expert will be invited as a speaker)
Week5-2	Measures to Implement Energy Policies (group discussion)	Trends and challenges in energy conservation and renewable energy deployment Comparison of energy policies in each country
Week 6	3E+S (group discussion)	Challenges and policy measures to balance each aspect of 3E+S (Safety, Energy Security, Economic Efficiency, Environment)
Week7-1	Latest Energy Policy in Japan	The direction of Japan's energy policy and the promotion of decarbonization in Asia under AZEC (an expert will be invited as a speaker)
Week7-2	Energy Policy Challenges (group presentation)	Energy policy characteristics and challenges in each country
Week8-1	Recent Trends in Measures to Combat Climate Change	The latest discussions and developments on climate change at national and international level (an expert will be invited as a speaker)
Week8-2	Discussion of Energy Policy for the Future	Comprehensive discussion of energy policy based on what has been learnt in this course

※Term Paper should be submitted by the end of the next week of Week 8.

※Contents of the Course might be changed due to inquiries or expectations of students.

[Out-of-class Learning]

Students are expected to be active participants in class and to develop a mutual understanding of each country's situation through discussion.

After class, students should review the contents of the lecture, make comment for each day and prepare for group discussion/presentation and term paper.

3. Grading :

Term paper 40%, Group discussion/presentation 30%, Comment sheet for each day 30%.

Term paper is composed of about 1000words.

A: Acquire sufficient knowledge of sustainable energy policy and can identify challenges and propose solutions for a meaningful policy framework

B: Acquire basic knowledge of sustainable energy policy and can identify challenges and propose solutions for a meaningful policy framework

C: Acquire basic knowledge of sustainable energy policy and can identify challenges for a meaningful policy framework

D: Acquire basic knowledge of sustainable energy policy

E: Not acquire basic knowledge of sustainable energy policy and cannot explain what it is.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:必携のテキスト/Required

4-2:その他/Others

- ① World Energy Outlook 2024, International Energy Agency (IEA)
<https://www.iea.org/reports/world-energy-outlook-2024>
- ② White Paper of Energy in Japan 2024 (Japanese)
<https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2024/pdf/>
- ③ Energy Policies of IEA Countries; Japan 2021 Review
<https://www.iea.org/reports/japan-2021>
- ④ Strategic Energy Plan, Government of Japan
https://www.enecho.meti.go.jp/en/category/others/basic_plan/
- ⑤ Countries and regions, International Energy Agency(IEA) website
<https://www.iea.org/countries>

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Back

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	STI7251J
授業名	計量分析演習
担当者	SUZUKI Jun／鈴木 潤
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Fall (Session I) 秋前／Sat 土／3 4
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

EBPM（エビデンスに基づく政策立案）のための政策効果の測定には、各種サーベイ結果や統計等のデータの活用が欠かせない。本講義は、基本的なデータ分析を学生自らが実際に行うことによって、適切なデータの収集やクリーニング、加工、分析、結果の解釈、などを行うことができる能力を養うことを目的とする。計量分析のツールは日々進歩しているが、それを利用したり結果を解釈したりするためには知っておくべき前提や専門用語、手法の限界、陥りがちな落とし穴などが随所に存在する。本講義では統計学の理論や数学的説明を極力避け、実務的な応用と解説を重視するため、統計分析の初心者であっても受講可能である。本演習によって基本的な分析手法と結果を解釈する能力を身に着ければ、様々なレポートや論文で示されるデータ分析結果を自ら主体的に解釈し、他者による解釈の限界などを理解することも可能になるものと期待される。

[到達目標]

学生が到達すべき目標は以下の通り。

- (1)定量的データの種類や特性を理解し、目的とする分析の手法やモデルに対してどのようなデータ型が適切なのかを理解することができるようになる。
- (2)定量的データのクリーニングや記述統計、分布の確認などができるようになる。
- (3)統計分析ツール（ソフトウェア）の基本的操作方法を身に着ける。
- (4)出力された分析結果の意味とその限界を理解し、適切に解釈することが可能になる。

[関連するディプロマ・ポリシー]

（科学技術イノベーション政策プログラム（博士））

- ③ 科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、問題を設定し、仮説を構築し、定量的・定性的データ等を活用して分析を行い、それらを政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションできる能力
- ④ 科学技術イノベーション政策の形成や実施の実務に関する高度な理解を有し、理論と実務を架橋した実践的な政策提言ができる能力

2. 各授業のテーマ：

各sessionは、土曜日の午後3限/4限連続で実施する（最終回は3限のみ）

Session 1/2 データ分析の基礎と分析ソフト・データの準備

R、Rコマンダー、EZRのセットアップ、データの観察と記述統計

Session 3/4 グループ間の比較と検定

変数の種類、平均値の比較、中央値の比較、相関、直交表

Session 5/6 多変量解析の基礎

因子分析・主成分分析、クラスター分析

Session 7/8 回帰分析-1

単回帰、OLS重回帰、残差の診断、変数選択

Session 9/10 回帰分析-2

ダミー変数、カテゴリーデータ：ロジスティック回帰（単項、多項、順序）、一般化線形モデル

Session 11/12 回帰分析-3

時系列データ、パネルデータの重回帰
Session 13/14 因果関係の分析、その他
内生性と操作変数、傾向スコアによる分析、その他
Session 15 ラップアップ
学生による課題解析発表の発表と討論

[授業外学修]

受講者は、毎回授業で配布されるサンプルデータを用いて、自ら分析を再現するとともに、様々な分析のオプションを実施し、どのような結果が得られるのかを確認してみることが望ましい。また、ラップアップに向けて担当するデータセットが決まったら（ラップアップの2～3週間前に決定）、適切な方法で分析を行い、結果を解釈する。そして効果的なプレゼンテーションを目指してパワーポイント・スライドなどを作成する。

3. 成績の評価方法：

各sessionにおけるデータ分析とディスカッションへの参加（50%）
最終ラップアップsessionにおける自らの分析結果の発表とディスカッション（50%）

【成績評価基準】

- A: 到達目標について高い水準で達成している
- B: 到達目標について満足できる水準で達成している
- C: 到達目標について概ね達成している
- D: 到達目標について最低限の水準は達成している
- E: 到達目標について達成できていない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

4-2:その他

神田善仲、2020年、EZRでやさしく学ぶ統計学「改訂3版」、中外医学社
逸見功、2018年、統計ソフト「R」超入門、ブルーバックス、講談社
森田果、2014年、実証分析入門、日本評論社

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

受講者は、事前に下記HP（自治医大のHPです）から、EZRのインストーラーをダウンロードしておくこと（インストールと初期設定は講義の中で行う）：

<https://www.jichi.ac.jp/saitama-sct/SaitamaHP.files/statmed.html>

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

本講義は、修士課程・博士課程の合同講義として実施する。授業形態はハイブリッド（対面とオンラインの併用）である。

受講者は、統計ソフトのインストールおよびデータを保存するため、自らのPCを持参すること（OSとしてWindows 11 搭載機、また操作性の観点からマウスの利用を推奨する。Mac OS搭載機については、OSのバージョンにより統計ソフトがインストールできないことがあるので、利用する場合は自己責任で）。

この科目はデータサイエンス関連科目に指定されています。

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	YLP5000E
授業名	Introduction to Japan
担当者	PRESSELLO Andrea
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Fall (Session I) 秋前／Thu 木／3 4
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

[Course Description]

The purpose of this course is to provide a basic understanding of Japan through the discussion of its history and culture. In particular, the course examines the major transformations, issues, and challenges faced by Japan from ancient times to today, exploring domestic socio-political-economic and cultural developments, as well as Japanese relations with the world. The following main questions will be addressed during the course: what are the important transformations in Japanese history and culture? What factors explain change and continuity? How has Japan interacted with other countries in the course of its history? Through this course, students can gain a basic understanding of some of the major historical and societal developments and policy issues in Japan, and can acquire the ability to identify and explain factors shaping major processes and decisions by Japanese leaders. Such learning also contributes to deepen understanding of contemporary Japan and its people. During the course, some videos will be shown and one or two classes will be held in the form of a field trip to a site related to the contents of the course.

[Course Goals]

Students can:

- understand issues and processes in Japan's history and society.
- develop the ability to identify and explain factors shaping Japanese leaders' choices, and their implications.

[Related Diploma Policy (DP)]

Young Leaders Program DP3

③Ability to build a strong foundation of relationship with Japan based on a deep understanding of Japan

2. 各授業のテーマ：

- 1) Introduction
- 2) Understanding Japan: geography, religion, values, and traditional culture
- 3) Pre-modern Japan: socio-political-economic transformations
- 4) Cultural flourishing in the Edo period (1603-1868)
- 5) Japan in the mid-19th century: end of the "closed country" policy and the "Meiji Revolution"
- 6) The making of modern institutions, economy, and society in the Meiji period (1868-1912)
- 7) Emergence of Japan as an international power
- 8) Field trip
- 9) From progress in the democratization process to the rise of militarism
- 10) World War II, defeat, and the Occupation of Japan
- 11) Postwar Japan: recovery and issues I
- 12) Postwar Japan: recovery and issues II
- 13) Field Trip
- 14) Contemporary Japan: challenges and issues I
- 15) Contemporary Japan: challenges and issues II

* This course outline is subject to change.

[Out-of-class Learning]

In preparation for each class, students are expected to read the materials distributed by the instructor and write short reaction comments on them. After class, students are encouraged to review the contents of the lecture and their notes. Students are also encouraged to do further reading on specific topics of their interest that were discussed in class.

3. 成績の評価方法：

Term paper: 60%

Reaction comments and contribution to class discussions: 40%

[Grading Criteria]

Outstanding: A

Superior: B

Satisfactory: C

Minimum acceptable: D

Unsatisfactory: E

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:Required

There is no specific textbook required for this course. Reading materials (such as journal articles, book chapters, other) will be provided by the instructor during the course.

4-2:Others

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

The use of generative artificial Intelligence is not allowed when writing weekly assignments and the term paper. Software that provide support with English grammar and spelling can be used.

6. 聴講の可否：

否

7. 履修上の注意：

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	STI3160J
授業名	科学技術イノベーション政策特論Ⅶ
担当者	UEYAMA Takahiro／上山 隆大
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Fall (Session I) 秋前／Sat 土／1 2
単位数	1

1. 本授業の概要及び到達目標：

【本授業の概要】

授業タイトル「科学技術政策・イノベーション政策について考える」

この授業は、公共政策の一分野としての科学技術政策さらにより広い意味でのイノベーション政策を扱う。高度知識基盤社会に突入しつつある国々では、先端科学技術や科学知識をどのように生み出すのかが経済成長に不可欠の要因となっている。加えて、近年では科学技術に由来するイノベーションの含意が拡大し、グローバルな社会的インパクトを勘案する方向へと進んでいる。

この授業では、近代社会の成立とともに明確となった科学という知的営為が、どのような背景の中で経済的要因と不可分な活動と見なされるようになったのか、また国家の運営の中で捉えるようになったのはなぜか、またそれが国家の政策として形作られるプロセスいかなるものか、といった問題をまず取り上げる。また、科学技術を生み出す拠点としての大学がどのように生まれ、変貌を遂げつつあるのか。人類の知の探求を行なうはずの大学が、社会全体の経済活動にどのように関わるようになって行ったのか。大学における研究がどのように特許の対象となり、その動きが社会的な問題を引き起こしているのか。それを国家的な戦略の中で考えると如何なる意味をもっているのかについて触れる。最後に、近年の科学技術・イノベーション会議における政策形成について議論し授業のまとめとする。

【到達目標】

全8回の本授業では講師がそれぞれの回で取り上げるトピックについて、政策立案の背景、政策を支えるデータ、海外の研究者の動向などを織り交ぜての紹介がなされる。学生は自分自身が修士論文や博士論文の作成について持っている問題意識から講義への質問・討議といった参加が求められる。学位を目的としない学生についても、科学技術イノベーション政策についての自身の関心からの積極的な参加が期待される。

学生がこの授業によって達成すべき目標は次のとおりである。(1) 科学技術イノベーション政策という政策学の中ではまだ新しい研究分野の中で、どのような研究対象があり得るのかを考え直す。(2) それが実際の政府の政策立案現場においてどのような意味を持っているのかについての理解を深める。(3) それぞれの学生が目標としている博士論文、修士論文、リサーチペーパーでのリサーチクエストを鍛える契機とする。(4) これらの過程を経てタームペーパーを作成することを目標とする。

【関連するディプロマ・ポリシー】

科学技術イノベーション政策プログラム

DP① 科学技術イノベーションとその政策に関する学術的知識を有し、それらを政策課題に対して応用することができる能力

DP② 公共政策に係る知識を持ち、それらの文脈の中で科学技術イノベーション政策をとらえ、分析ができる能力

DP③ 科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、問題を設定し、仮説を構築し、定量的・定性的データ等を活用して分析を行い、それらを政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションできる能力

DP④ 科学技術イノベーション政策の形成や実施の実務に関する理解を有し、理論と実務を架橋した実践的な政策提言ができる能力

2. 各授業のテーマ：

本授業では、主に内閣府総合科学技術イノベーション会議で制定された「科学技術イノベーション基本計画」の理論的背景、制作形成過程、などを詳細に紹介し、議論の俎上に載せる。

第1回+第2回（3時間） 科学技術イノベーション政策の全体像について学ぶ

科学技術政策とは何か。科学技術政策とイノベーション政策との関連は何か。社会科学のアプローチは科学技術政策にいかなる意味を持つのか。

【予習】事前に配布した資料に目を通しておくこと

【復習】授業での議論をまとめておく

第3回+4回（3時間） 総合科学技術・イノベーション会議の歴史的背景と政策目標

1995年の科学技術基本法の制定、1996年からの科学技術基本計画の歴史、それぞれの計画が求めてきたものについて学ぶ。

【予習】事前に配布した資料に目を通しておくこと

【復習】授業での議論をまとめておく

第5回+第6回（3時間）第6期科学技術イノベーション基本計画と次期基本計画に焦点を当てる

2014年に総合科学技術会議が、総合科学技術・イノベーション会議へと変わったこと、それによって我が国の科学技術政策がどのような変化を経験したのかについて学ぶ。

【予習】事前に配布した資料に目を通しておくこと

【復習】授業での議論をまとめておく

第7回+第8回（3時間）経済安全保障、国家安全保障と科学技術イノベーション政策

科学技術イノベーション政策が他の社会科学と密接に関連していること、特に近年の地政学的変化の中で形成されつつある新しい科学技術政策を学ぶ。

【予習】事前に配布した資料に目を通しておくこと

【復習】授業での議論をまとめておく

期末試験は行わない。2月初めを提出期限としてタームペーパーの提出を求める。

タームペーパー提出後、3月中旬を目処に3時間程度の追加の授業を持つ。そこでそれぞれのタームペーパーについての講師のコメントを行うとともに、参加者と討議を行う。

[授業外学修]

授業外の学修としてはそれぞれの回で指示する。8回という限られた回数であるので、まずは科学技術イノベーション政策の全体像を理解することをこの授業の主たる目的とする。ただし、この分野が、経済学、地域研究、行政学、安全保障論、経済発展、など多岐の分野との連動しているため、それぞれの学生が自らの関心から授業に参加することが求められる。8回の授業が終わり、タームペーパー提出後に日を定めて、全体集合の会を設け、その場でそれぞれの研究テーマについての簡単な報告と議論の場を設ける予定である。

3. 成績の評価方法：

Class participation and attendance is part of the grade.

Individual paper 70%

Class participation 30%

[成績評価基準]

A: 到達目標を高い水準で達成している

B: 到達目標を満足できる水準で達成している

C: 到達目標を概ね達成している

D: 到達目標を最低限の水準で達成している

E: 到達目標を達成していない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

- ・上山隆大. アカデミックキャピタリズムを超えて：アメリカの大学と科学研究の現在. NTT出版. 2010. 331p
- ・後藤晃・小田切宏之. サイエンス型産業, NTT出版, 2003, 409p.

4-2:その他

日本語文献の一部を挙げる。

- ・S・シェーン. 大学発ベンチャー. 中央経済社、2004, 385p
- ・小田切宏之. バイオテクノロジーの経済学, 2006, 304p.
- ・ミケーレ・ボルドリン他. <反>知的独占：特許と著作権の経済学, NTT出版. 2010, 433p
- ・クレイトン・クリステンセン. イノベーションのジレンマ. 2001, 327p.
- ・アナリー・サクセニアン. 現代の二都物語：なぜシリコンバレーは復活し、ボストンルート128は沈んだか. 日経BP, 350p.

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

必要なソフトウェアはない。

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

事前に履修すべき授業はない。できるかぎり自らのリサーチクエストを事前に考えて参加すること。

戻る

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	STI7161E
Course Name	Outline of Energy Policy
Instructor	TAKAHASHI Kazuaki／高橋 一彰
Email Address	
Term／Day／Period	Fall (Session I) 秋前／Fri 金／3 4
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

Energy is essential for living standards in the modern economy. Each country conducts its own energy policy for securing energy supply sufficient to increasing demand by the economic growth, maintaining the cost within affordable levels and considering environmental concern simultaneously.

This class explores energy situation, energy policy challenges and possibilities from various perspectives, including the basic principle 3E+S (Safety, Energy Security, Economic Efficiency and Environment).

Students will identify and compare the characteristics of the energy situation and energy policy and potential solutions for sustainable energy policy in each country for effective understanding.

This course is related to the following SDGs:

7 (Energy), 8 (Economic Growth),13(Climate Action)

[Related Diploma Policy (DP)]

Science, Technology and Innovation Policy Program (STI)(Doctoral): ①②③④⑤

[Course Goals]

Students can:

- (1) identify the challenges to be solved for developing sustainable energy policy
- (2) discuss the challenges and potential solutions
- (3) raise the issues that need to be studied in more detail to get meaningful policy framework

2. Course Outline :

Week1-1	Introduction	Main Objectives of Energy Policy, Global Supply and Demand Figure, Historical View of Energy Policy etc.
Week1-2	Policy Framework	Safety, Energy Security, Economic Efficiency and Environment as the principle of energy policy
Week2-1	Oil and Gas Security Policy	Oil and natural gas policy for the security of energy supply (Prof. Nei)
Week2-2	Clean Energy System	Technologies for a sustainable energy system, such as energy saving, renewables, hydrogen and CCUS, and framework of Japanese Energy Policy (Prof. Nei)
Week3-1	Energy Measures that Provide Co-benefits	Energy measures with co-benefits for health, pollution reduction, resilience etc. (an expert will be invited as a speaker)
Week3-2	Energy and Environment	Energy measures to mitigate climate change (an expert will be invited as a speaker)

Week4-1	Electricity and Nuclear Energy Policy	Measures for resilient electricity infrastructure, including nuclear energy's role in energy policy (Prof. Nei)
Week4-2	Energy Situations (group discussion)	Comparison of energy supply and demand and other energy situations in each country
Week5-1	Nuclear Safety after Fukushima accident	An overview of the nuclear accident at Fukushima Daiichi NPS and the response to it (an expert will be invited as a speaker)
Week5-2	Measures to Implement Energy Policies (group discussion)	Trends and challenges in energy conservation and renewable energy deployment Comparison of energy policies in each country
Week 6	3E+S (group discussion)	Challenges and policy measures to balance each aspect of 3E+S (Safety, Energy Security, Economic Efficiency, Environment)
Week7-1	Latest Energy Policy in Japan	The direction of Japan's energy policy and the promotion of decarbonization in Asia under AZEC (an expert will be invited as a speaker)
Week7-2	Energy Policy Challenges (group presentation)	Energy policy characteristics and challenges in each country
Week8-1	Recent Trends in Measures to Combat Climate Change	The latest discussions and developments on climate change at national and international level (an expert will be invited as a speaker)
Week8-2	Discussion of Energy Policy for the Future	Comprehensive discussion of energy policy based on what has been learnt in this course

※Term Paper should be submitted by the end of the next week of Week 8.

※Contents of the Course might be changed due to inquiries or expectations of students.

[Out-of-class Learning]

Students are expected to be active participants in class and to develop a mutual understanding of each country's situation through discussion.

After class, students should review the contents of the lecture, make comment for each day and prepare for group discussion/presentation and term paper.

3. Grading :

Term paper 40%, Group discussion/presentation 30%, Comment sheet for each day 30%.

Term paper is composed of about 1000words.

A: Acquire sufficient knowledge of sustainable energy policy and can identify challenges and propose solutions for a meaningful policy framework

B: Acquire basic knowledge of sustainable energy policy and can identify challenges and propose solutions for a meaningful policy framework

C: Acquire basic knowledge of sustainable energy policy and can identify challenges for a meaningful policy framework

D: Acquire basic knowledge of sustainable energy policy

E: Not acquire basic knowledge of sustainable energy policy and cannot explain what it is.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:必携のテキスト/Required

4-2:その他/Others

- ① World Energy Outlook 2024, International Energy Agency (IEA)
<https://www.iea.org/reports/world-energy-outlook-2024>
- ② White Paper of Energy in Japan 2024 (Japanese)
<https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2024/pdf/>
- ③ Energy Policies of IEA Countries; Japan 2021 Review
<https://www.iea.org/reports/japan-2021>
- ④ Strategic Energy Plan, Government of Japan
https://www.enecho.meti.go.jp/en/category/others/basic_plan/
- ⑤ Countries and regions, International Energy Agency(IEA) website
<https://www.iea.org/countries>

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Back

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	STI7251J
授業名	計量分析演習
担当者	SUZUKI Jun／鈴木 潤
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Fall (Session I) 秋前／Sat 土／3 4
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

EBPM（エビデンスに基づく政策立案）のための政策効果の測定には、各種サーベイ結果や統計等のデータの活用が欠かせない。本講義は、基本的なデータ分析を学生自らが実際に行うことによって、適切なデータの収集やクリーニング、加工、分析、結果の解釈、などを行うことができる能力を養うことを目的とする。計量分析のツールは日々進歩しているが、それを利用したり結果を解釈したりするためには知っておくべき前提や専門用語、手法の限界、陥りがちな落とし穴などが随所に存在する。本講義では統計学の理論や数学的説明を極力避け、実務的な応用と解説を重視するため、統計分析の初心者であっても受講可能である。本演習によって基本的な分析手法と結果を解釈する能力を身に着ければ、様々なレポートや論文で示されるデータ分析結果を自ら主体的に解釈し、他者による解釈の限界などを理解することも可能になるものと期待される。

[到達目標]

学生が到達すべき目標は以下の通り。

- (1) 定量的データの種類や特性を理解し、目的とする分析の手法やモデルに対してどのようなデータ型が適切なのかを理解することができるようになる。
- (2) 定量的データのクリーニングや記述統計、分布の確認などができるようになる。
- (3) 統計分析ツール（ソフトウェア）の基本的操作方法を身に着ける。
- (4) 出力された分析結果の意味とその限界を理解し、適切に解釈することが可能になる。

[関連するディプロマ・ポリシー]

（科学技術イノベーション政策プログラム（博士））

- ③ 科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、問題を設定し、仮説を構築し、定量的・定性的データ等を活用して分析を行い、それらを政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションできる能力
- ④ 科学技術イノベーション政策の形成や実施の実務に関する高度な理解を有し、理論と実務を架橋した実践的な政策提言ができる能力

2. 各授業のテーマ：

各sessionは、土曜日の午後3限/4限連続で実施する（最終回は3限のみ）

Session 1/2 データ分析の基礎と分析ソフト・データの準備

R、Rコマンダー、EZRのセットアップ、データの観察と記述統計

Session 3/4 グループ間の比較と検定

変数の種類、平均値の比較、中央値の比較、相関、直交表

Session 5/6 多変量解析の基礎

因子分析・主成分分析、クラスター分析

Session 7/8 回帰分析-1

単回帰、OLS重回帰、残差の診断、変数選択

Session 9/10 回帰分析-2

ダミー変数、カテゴリーデータ：ロジスティック回帰（単項、多項、順序）、一般化線形モデル

Session 11/12 回帰分析-3

時系列データ、パネルデータの重回帰
Session 13/14 因果関係の分析、その他
内生性と操作変数、傾向スコアによる分析、その他
Session 15 ラップアップ
学生による課題解析発表の発表と討論

[授業外学修]

受講者は、毎回授業で配布されるサンプルデータを用いて、自ら分析を再現するとともに、様々な分析のオプションを実施し、どのような結果が得られるのかを確認してみることが望ましい。また、ラップアップに向けて担当するデータセットが決まったら（ラップアップの2～3週間前に決定）、適切な方法で分析を行い、結果を解釈する。そして効果的なプレゼンテーションを目指してパワーポイント・スライドなどを作成する。

3. 成績の評価方法：

各sessionにおけるデータ分析とディスカッションへの参加（50%）
最終ラップアップsessionにおける自らの分析結果の発表とディスカッション（50%）

【成績評価基準】

- A: 到達目標について高い水準で達成している
- B: 到達目標について満足できる水準で達成している
- C: 到達目標について概ね達成している
- D: 到達目標について最低限の水準は達成している
- E: 到達目標について達成できていない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

4-2:その他

神田善伸、2020年、EZRでやさしく学ぶ統計学「改訂3版」、中外医学社
逸見功、2018年、統計ソフト「R」超入門、ブルーバックス、講談社
森田果、2014年、実証分析入門、日本評論社

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

受講者は、事前に下記HP（自治医大のHPです）から、EZRのインストーラーをダウンロードしておくこと（インストールと初期設定は講義の中で行う）：

<https://www.jichi.ac.jp/saitama-sct/SaitamaHP.files/statmed.html>

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

本講義は、修士課程・博士課程の合同講義として実施する。授業形態はハイブリッド（対面とオンラインの併用）である。

受講者は、統計ソフトのインストールおよびデータを保存するため、自らのPCを持参すること（OSとしてWindows 11 搭載機、また操作性の観点からマウスの利用を推奨する。Mac OS搭載機については、OSのバージョンにより統計ソフトがインストールできないことがあるので、利用する場合は自己責任で）。

この科目はデータサイエンス関連科目に指定されています。

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	STI8161J
授業名	科学技術イノベーション政策特論Ⅶ
担当者	UEYAMA Takahiro／上山 隆大
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Fall (Session I) 秋前／Sat 土／1 2
単位数	1

1. 本授業の概要及び到達目標：

【本授業の概要】

授業タイトル「科学技術政策・イノベーション政策について考える」

この授業は、公共政策の一分野としての科学技術政策さらにより広い意味でのイノベーション政策を扱う。高度知識基盤社会に突入しつつある国々では、先端科学技術や科学知識をどのように生み出すのが経済成長に不可欠の要因となっている。加えて、近年では科学技術に由来するイノベーションの含意が拡大し、グローバルな社会的インパクトを勘案する方向へと進んでいる。

この授業では、近代社会の成立とともに明確となった科学という知的営為が、どのような背景の中で経済的要因と不可分な活動と見なされるようになったのか、また国家の運営の中で捉えるようになったのはなぜか、またそれが国家の政策として形作られるプロセスいかなるものか、といった問題をまず取り上げる。また、科学技術を生み出す拠点としての大学がどのように生まれ、変貌を遂げつつあるのか。人類の知の探求を行なうはずの大学が、社会全体の経済活動にどのように関わるようになって行ったのか。大学における研究がどのように特許の対象となり、その動きが社会的な問題を引き起こしているのか。それを国家的な戦略の中で考えると如何なる意味をもっているのかについて触れる。最後に、近年の科学技術・イノベーション会議における政策形成について議論し授業のまとめとする。

【到達目標】

全8回の本授業では講師がそれぞれの回で取り上げるトピックについて、政策立案の背景、政策を支えるデータ、海外の研究者の動向などを織り交ぜての紹介がなされる。学生は自分自身が修士論文や博士論文の作成について持っている問題意識から講義への質問・討議といった参加が求められる。学位を目的としない学生についても、科学技術イノベーション政策についての自身の関心からの積極的な参加が期待される。

学生がこの授業によって達成すべき目標は次のとおりである。(1) 科学技術イノベーション政策という政策学の中ではまだ新しい研究分野の中で、どのような研究対象があり得るのかを考え直す。(2) それが実際の政府の政策立案現場においてどのような意味を持っているのかについての理解を深める。(3) それぞれの学生が目標としている博士論文、修士論文、リサーチペーパーでのリサーチクエストを鍛える契機とする。(4) これらの過程を経てタームペーパーを作成することを目標とする。

【関連するディプロマ・ポリシー】

科学技術イノベーション政策プログラム

DP①科学技術イノベーションとその政策に関する高度な学術的かつ学際的な専門知識を有し、それらを政策課題に対して複合的に応用することができる能力

DP②公共政策に係る幅広い知識を持ち、それらの文脈の中で科学技術イノベーション政策をとらえ、多角的な視野から分析ができる能力

DP③科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、過去の学術的知見を踏まえて問題を設定し、仮説を構築し、科学技術イノベーションに特有なデータを含めて多様な定量的・定性的データ等を活用して独自の分析を行い、それらを研究論文や政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションできる能力

DP④科学技術イノベーション政策の形成や実施の実務に関する高度な理解を有し、理論と実務を架橋した実践的な政策提言ができる能力

2. 各授業のテーマ：

本授業では、主に内閣府総合科学技術イノベーション会議で制定された「科学技術イノベーション基本計画」の理論的背景、制作形成過程、などを詳細に紹介し、議論の俎上に載せる。

第1回+第2回（3時間） 科学技術イノベーション政策の全体像について学ぶ

科学技術政策とは何か。科学技術政策とイノベーション政策との関連は何か。社会科学のアプローチは科学技術政策にいかなる意味を持つのか。

【予習】事前に配布した資料に目を通しておくこと

【復習】授業での議論をまとめておく

第3回+4回（3時間） 総合科学技術・イノベーション会議の歴史的背景と政策目標

1995年の科学技術基本法の制定、1996年からの科学技術基本計画の歴史、それぞれの計画が求めてきたものについて学ぶ。

【予習】事前に配布した資料に目を通しておくこと

【復習】授業での議論をまとめておく

第5回+第6回（3時間） 第6期科学技術イノベーション基本計画と次期基本計画に焦点を当てる

2014年に総合科学技術会議が、総合科学技術・イノベーション会議へと変わったこと、それによって我が国の科学技術政策がどのような変化を経験したのかについて学ぶ。

【予習】事前に配布した資料に目を通しておくこと

【復習】授業での議論をまとめておく

第7回+第8回（3時間） 経済安全保障、国家安全保障と科学技術イノベーション政策

科学技術イノベーション政策が他の社会科学と密接に関連していること、特に近年の地政学的変化の中で形成されつつある新しい科学技術政策を学ぶ。

【予習】事前に配布した資料に目を通しておくこと

【復習】授業での議論をまとめておく

期末試験は行わない。2月初めを提出期限としてタームペーパーの提出を求める。

タームペーパー提出後、3月中旬を目処に3時間程度の追加の授業を持つ。そこでそれぞれのタームペーパーについての講師のコメントを行うとともに、参加者と討議を行う。

[授業外学修]

授業外の学修としてはそれぞれの回で指示する。8回という限られた回数であるので、まずは科学技術イノベーション政策の全体像を理解することをこの授業の主たる目的とする。ただし、この分野が、経済学、地域研究、行政学、安全保障論、経済発展、など多岐の分野との連動しているため、それぞれの学生が自らの関心から授業に参加することが求められる。8回の授業が終わり、タームペーパー提出後に日を定めて、全体集合の会を設け、その場でそれぞれの研究テーマについての簡単な報告と議論の場を設ける予定である。

3. 成績の評価方法：

Class participation and attendance is part of the grade.

Individual paper 70%

Class participation 30%

[成績評価基準]

A: 到達目標を高い水準で達成している

B: 到達目標を満足できる水準で達成している

C: 到達目標を概ね達成している

D: 到達目標を最低限の水準で達成している

E: 到達目標を達成していない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

- ・上山隆大. アカデミックキャピタリズムを超えて：アメリカの大学と科学研究の現在. NTT出版. 2010. 331p
- ・後藤晃・小田切宏之. サイエンス型産業, NTT出版, 2003, 409p.

4-2:その他

日本語文献の一部を挙げる。

- ・S・シェーン. 大学発ベンチャー. 中央経済社、2004, 385p
- ・小田切宏之. バイオテクノロジーの経済学, 2006, 304p.
- ・ミケーレ・ボルドリン他. <反>知的独占：特許と著作権の経済学, NTT出版. 2010, 433p
- ・クレイトン・クリステンセン. イノベーションのジレンマ. 2001, 327p.
- ・アナリー・サクセニアン. 現代の二都物語：なぜシリコンバレーは復活し、ボストンルート128は沈んだか. 日経BP, 350p.

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

必要なソフトウェアはない。

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

事前に履修すべき授業はない。できるかぎり自らのリサーチクエスチョンを事前に考えて参加すること。

戻る

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	YLP5000E
Course Name	Introduction to Japan
Instructor	PRESSELLO Andrea
Email Address	
Term/Day/Period	Fall (Session I) 秋前/Thu 木/3 4
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

The purpose of this course is to provide a basic understanding of Japan through the discussion of its history and culture. In particular, the course examines the major transformations, issues, and challenges faced by Japan from ancient times to today, exploring domestic socio-political-economic and cultural developments, as well as Japanese relations with the world. The following main questions will be addressed during the course: what are the important transformations in Japanese history and culture? What factors explain change and continuity? How has Japan interacted with other countries in the course of its history? Through this course, students can gain a basic understanding of some of the major historical and societal developments and policy issues in Japan, and can acquire the ability to identify and explain factors shaping major processes and decisions by Japanese leaders. Such learning also contributes to deepen understanding of contemporary Japan and its people. During the course, some videos will be shown and one or two classes will be held in the form of a field trip to a site related to the contents of the course.

[Course Goals]

Students can:

- understand issues and processes in Japan's history and society.
- develop the ability to identify and explain factors shaping Japanese leaders' choices, and their implications.

[Related Diploma Policy (DP)]

Young Leaders Program DP3

③Ability to build a strong foundation of relationship with Japan based on a deep understanding of Japan

2. Course Outline :

- 1) Introduction
- 2) Understanding Japan: geography, religion, values, and traditional culture
- 3) Pre-modern Japan: socio-political-economic transformations
- 4) Cultural flourishing in the Edo period (1603-1868)
- 5) Japan in the mid-19th century: end of the "closed country" policy and the "Meiji Revolution"
- 6) The making of modern institutions, economy, and society in the Meiji period (1868-1912)
- 7) Emergence of Japan as an international power
- 8) Field trip
- 9) From progress in the democratization process to the rise of militarism
- 10) World War II, defeat, and the Occupation of Japan
- 11) Postwar Japan: recovery and issues I
- 12) Postwar Japan: recovery and issues II
- 13) Field Trip

- 14) Contemporary Japan: challenges and issues I
- 15) Contemporary Japan: challenges and issues II

* This course outline is subject to change.

[Out-of-class Learning]

In preparation for each class, students are expected to read the materials distributed by the instructor and write short reaction comments on them. After class, students are encouraged to review the contents of the lecture and their notes. Students are also encouraged to do further reading on specific topics of their interest that were discussed in class.

3. Grading :

Term paper: 60%

Reaction comments and contribution to class discussions: 40%

[Grading Criteria]

Outstanding: A

Superior: B

Satisfactory: C

Minimum acceptable: D

Unsatisfactory: E

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

There is no specific textbook required for this course. Reading materials (such as journal articles, book chapters, other) will be provided by the instructor during the course.

4-2:Others

5. Software Used in Lectures :

The use of generative artificial Intelligence is not allowed when writing weekly assignments and the term paper. Software that provide support with English grammar and spelling can be used.

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7. Note :

Back
